

平成26年6月15日発行 ライセンスメイト 第1巻237号通巻563号(年4回 3月15日、6月15日、9月15日、12月15日発行) 昭和36年11月6日第三種郵便物認可

LICENSE MATE

ライセンスメイト

ありがとう台湾

世界一の親日国に感謝

日台の生命の絆



國民革命忠烈祠(台北)への正式参拝

日本時代には当地に台灣護國神社があった。その護國神社跡に忠烈祠が建立されている。中央に北京の大和殿を模した本殿、左右に文烈士祠、武烈士祠があり、中華民國の為に戦死した33万人の将兵が祀られている。

(写真提供: 第15次慰霊訪問団員の中村哲氏)

発行所 株式会社 日本教育開発

LICENSE MATE

特集 台湾慰霊訪問団

- 1 忠烈祠に祀られた唯一の日本人・山田良政
- 2 「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて
- 3 団長あいさつ
- 5 台湾訪問の目的
- 9 報告集(ライセンスメイト)について
- 10 日台の家族(兄弟)交流のあゆみ
- 13 祭文／台湾訪問の旅 訪台者一覧
- 15 一目でわかる訪問先・交歓先
- 21 訪問先・交歓先一覧(第1次～第15次)
- 24 台湾訪問の旅 帰朝報告
- 27 台湾訪問の旅 紀行文集(抄)
- 35 臺灣の聲 — ありがとう日本
- 37 第16次台湾慰霊訪問の旅・参加者募集のお知らせ
- 38 知られざる「神蹟の遺跡」
- 39 國民革命忠烈祠・中華民国外交部・台日文化經濟協會表敬訪問
- 41 結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会
- 43 台湾特別講演会



小菅団長による献花式



忠烈祠本殿での記念撮影

忠烈祠に祀られた唯一の日本人・山田良政



台北市の忠烈祠に、日本人が唯一人祀られている。それは孫文の革命運動に参加し、惠州起義(1900)で戦死した山田良政である。

山田良政は明治元年(1869)、弘前に生まれた。東奥義塾から青森師範学校に入ったが、中退し東京水産学校第一期生として優秀な成績で卒業している。その後、北海

道昆布会社に就職したが、上海支店に転勤となり、中国との縁が結ばれた。日清戦争では陸軍通訳として活躍。戦後は海軍省嘱託として、当時、清朝の大改革(変法自強)に失敗した康有為、王照などを軍艦「大島」に乗せて、日本に亡命させている。

彼が孫文と初めて会談したのは、明治32年(1899)の7月、東京の神田三崎町の津軽の学生寮だった。この時、良政は孫文と支那の国政改革について談論して以来、深く孫文の革命主義に共鳴するようになったといわれている。

翌年、近衛篤磨公を中心として東亜同文会が結成され、中国の地

(南京、後に上海)に東亜同文書院が創立され、良政は同校の教授兼幹事として赴任した。

ちょうどその頃、北支では義和団事件が勃発し、北京もその手中に落ちたため、連合軍は兵を連ねて北京に迫り、光緒帝と西太后らは西安の地に逃亡してしまった。良政と親しかった唐才常は「チャンス到来」と武漢方面で滅満興漢の兵を挙げたが失敗し、殺害された。

ここにおいて良政は一大決心のもとに東亜同文書院を退職し、明治33年(1900)10月、孫文らとともに広東省の惠州で兵を挙げた。だが良政は捕らえられ、殺害されてしまった。時に33歳であった。



「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長 ^{えびす} 戎 ^{よし} 義 ^{とし} 俊

日華(台)親善友好慰霊訪問団小菅団長をはじめ団員の皆様におかれては、平成11年の第1回目の台湾ご訪問以来、毎年の中華民國台湾での戦没者慰霊活動や、日頃の台湾留学生へのご支援、また両国の相互理解促進への活動など民間友好交流への格別のご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご承知の通り「台湾は世界一の親日国家」でありまして、台湾には「日本精神(リッペンチェンシン)」が根付いているといわれています。今から約100年前の台湾で、社会資本整備のために自己を顧みずに尽くし犠牲となった日本人が大勢おられました。台湾の人々は台湾を近代化の道へと導いた日本への恩を忘れず、「日本精神」(勤勉・進取の精神・強い責任感・法を守る・人を思いやり和を尊ぶ・忍耐する)を体現して犠牲になられた方々の功績を今もなお語り継ぎ、「日本精神」は日本が遺した精神的な遺産として台湾で脈々と受け継がれているのです。

「滴水之恩、湧泉以報」(たとえ一滴の水でも受けた恩義は湧き出る泉として恩返しをする)という台湾の人々の想い、そして両国民が共通して持っている「日本精神」こそが、台日両国の目に見えない強い絆であるといえましょう。中華民國台湾と日本、これからもお互いに切磋琢磨し、両国の友好交流関係が一層緊密になることを願ってやみません。

いよいよ今秋10月7日から我が國立故宮博物院特別展が九州国立博物館で開催されます。両国文化交流の一層の促進を期待いたしますとともに、訪問団の皆様のお越しを心よりお待ちしております。

結びとなりますが、日華(台)親善友好慰霊訪問団のますますのご発展と小菅団長はじめ団員の皆様のご健勝とご多幸を記念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。



許國雄先生と台湾特別講演会

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

■ はじめに

平成11年から開始された台湾慰霊訪問の旅も今日では「海の彼方のニッポンを訪ねて」ですっかり知られるようになりましたが、もとはといえば市井の一民間企業の社員研修旅行から始まった企画でした。

■ 特亜への旅を変えて

平成のはじめに同じく社員研修旅行で韓国に2回、そして平成9年秋に福岡県訪中団の一員として中共の南京に1回と、アジアといえば特亜に3回しか足を踏み入れたことのない私にとっては、平成11年に訪れた台湾は見るごと、聞くごと、ふれることすべてが新鮮そのものでした。

驚きの第1は突出した親密度でした。中韓の2ヶ国に計3回の経験があったればこそ、なおさらそう感じたかもしれませんが、その際立ちは当初理解しがたいものでした。わが国から一視同仁の統治を受けながら、この違いは一体どこから来ているのか解答を見出せない日々が続きました。

驚きの第2はわが国・日本を慕うと同時に案じる気持ちの大きさでした。

■ 許國雄先生との運命的な出会い

当時、高雄の東方工商専科学校(現「東方技術学院」)を表敬訪問させていただいたが、創立者である許國雄先生はこう言われました。「台湾は大陸中共と向き合っているが、いざという時のために軍事教練だけは欠かしたことがない。『教育勅語』に「一

旦緩急アレバ義勇公ニ奉シ」とあるが、まっ先に馳せ参じるためだ。

日本統治時代にあった配属将校制度を模して、私のところでも退役軍人が学校に駐在している。学問と国防は一体のものとして追求しないといけないし、どちらか一方が欠けても機能しなくなる。領台時代に文武両道といわれたのがそれがこのことだ。

しかし、今の日本はどうか。平和すぎ、幸せすぎてすっかり戦いを忘れてしまった。世界一の歴史と伝統を誇り、その文化を享受しながら、国を守ることをすっかり忘れてしまっている。まるで歌を忘れたカナリヤで私は本当に心配でたまらない。」

久留米大学医学部を卒業し、若かりし日に神職を目指しながらも台湾人であるため、その夢が叶えられなかった先生は、私たち一行を学長室に招き入れ「天照皇大神宮」の掛け軸の前で熱弁をふるわれました。壁には教育勅語が掲げられ、西ドイツの戦後復興に尽力されたアデナウアー首相は殊の外、教育勅語のファンだった話をされました。日本語のほかに確か英語、独逸語、北京語と3ヶ国語に訳されたものが併行して飾ってあったのを覚えています。

伊勢神宮に定期的に参拝されていた先生は木曽川上流で採れた「さざれ石」を見せるためにご自慢の和室に案内され、「東洋一の大和文庫」を学校内に作るのが夢だと目を輝

かせました。

大正11年生まれの方が25歳の時に経験した2.28事件では、高雄の市議員だった父親の遺体の陰で死んだふりをして一命を取りとめた話、米国に「台湾関係法」を制定してもらうために、ジミー・カーター大統領の母君と先生の母君が共に産婆さん同士だったご縁を徹底して活用されたこと等、尽きない話に私たちはその都度魅了されたものでした。

■ 慰霊訪問団の組織化を決意

日本統治時代に受けた皇民化教育を懐かしがり、訪問した私たちより、本当の日本はここ台湾にあり、本物の日本人は台湾にこそいるとキャンパスの一角にある「東方瑞竹」(皇太子だった時代の昭和天皇が伝染病がはやっていた頃の台湾に行幸された際、最南端でお手植えされた瑞竹のこと)の前で力説されました。

彼らをここまで駆りたてたものとは一体何だったのか、私たちの父母、祖父母の世代が残した世界史的な偉業がここ台湾では現在に至るも脈々と息づいている、独立アジアを出生した母親である日本と、その場に立会い、手助けした産婆さんや助手の姿が二重写しに見えて仕方がありませんでした。

一口に日本軍に馳せ参じ戦死された被統治国の軍人さん、兵隊さんの英霊顕彰といいますが、かつての統治国といえどもすべてが円滑に運



ばれるわけではありません。むしろ台湾の場合は稀有な例に入ります。であればこそ、それをわが国・日本で伝え広め、一緒に参拝に来てくれる訪問団を組織することは、現代に生きる私たち日本人がやらずして世界のどの国の人もしてくれるはずがありません。

「日本時代は本当に良かった」といってもそれは統治した側である私たちがいくら呼号しても説得力に乏しいでしょう。統治され、統治した日本人と一体となって国づくりに汗を流し、東洋平和のために共に血をながした台湾人の言葉として語られた時、世界は納得します。

これを明治日本、大正日本、昭和日本の「歴史の証人」と言わずして何と呼んだらいいのでしょうか。中共や韓国等の特亜が「反日教育の証人」を粗製乱造している今日こそ、私たちにとってかけがえのない歴史の証人である台湾人が千金の重みをもってきたのではないのでしょうか。

■ 台湾特別講演会の開始

わが国と同じ価値を共有できる国・台湾。真、誠、和、作、清を心から受容してきた国・台湾。最も公心（おおやけごころ）を体得してくれた国・台湾。この台湾と生命の絆を結び、魂の交流を拡大し続けることの中にこそ両国の繁栄と東アジアの平和と安定の道があると信じる次第です。

平成13年5月、そのような台湾に行こうと呼びかけた全国紙（読売）における団員募集広告が翌14年は掲載不許可。それは中共領事館の圧力が原因といわれますが、そのような外圧に屈する戦後的言語空間の脆弱性の中にこそ真の原因ありと喝破し、平成15年に開始したのが、この台湾

特別講演会です。

今をさかのぼること1400年以上前に華夷秩序の外にあって国民の幸せを追求しようとした聖徳太子の末裔として、たかだか70年にも満たないMade in USAの言語空間にわが国の独立自存の気概を拝跪させる訳にはいきません。

産経新聞を除く全ての全国紙やメディア大手が米軍による占領統治の奇形的残滓をひきずり、変異しながらエイリアン化している今日のわが国の言語空間において、この企画の与える衝撃は計り知れないものがあると思います。

そのひとつは、戦前の日本統治時代を肯定した物の見方です。すなわち、わが国・日本の台湾統治、朝鮮統治、南洋統治、満州建国等は正しかったとする見方です。

二つ目は日清、日露、大東亜の戦役は必然であり、征戦かつ聖戦であり、かつ未だ継戦中であるという視点です。

三つ目は明治、大正、昭和と続く在外統治と民族解放のための戦いを肯定してこそ、台湾を含むアジアの民衆の声を正しく聞くことができるという姿勢です。

そして四つ目は、わが国の尊厳とアジアの自存自衛のために散華された英霊の歎しに素直に頭を垂れる謙虚さです。

戦後久しく続いている東京裁判史観にベースを置いた教育空間、言語空間は戦勝国、いわゆる連合国の視点に立って歴史を省みる態度を一般化させました。そして今日ではその間違いにすら気付かないようになってしまいました。

しかし、私たちは日本人なのです。

戦後69年も連合国製の義眼や補聴器をもって外界を見聞きする欺瞞とおさらばすべきです。日本人の国史と国語と国力の爆発的なエネルギーは擬制的な触覚機能によっては決して解放されません。

そしてそれを実現したのが台湾特別講演会です。平成15年以来12回目になるこの催しは、黄文雄先生に専属になっていただいてから早いもので10年の歳月が流れるに至りました。

台湾慰霊訪問の旅が契機となって開始された数ある行事の中でも最大の催しであるこの講演会の中にこそ、私たち慰霊訪問団の魂が凝縮されています。

許國雄先生に代表される多くの台湾人の発言や思いが、明治以降のわが国の台湾統治の正しさ、温かさ、そして中長期的幸福追求の真剣さを立証しています。それを大胆に取り上げているのがこの講演会です。米国製のCDやDVDが脳内に埋め込まれた形では台湾人との魂の交流などおおよびもつかないし、まして生命の絆などは確認するすべもありません。

祖国の防衛と大東亜の解放のために共に血と汗を流してくれた台湾人英霊を顕彰するとは、私たち自身が日本人になることを於いて他に考えられるでしょうか。

この講演会は秋の慰霊訪問の旅に参加して下さる志ある団員を募る場であると同時に原台湾人に原日本人としてむき合うために、はく奪されて久しい言語空間を奪還し、日本人の視点を現代に構築していく試みでもあるのです。

本日ご参加の皆様のご理解とご支援、ご鞭撻をお願いする次第です。



「大東亜戦争で散華された 台湾人同胞三万三千余柱の 英霊顕彰と慰霊祭参列」

- | | |
|-----------|--|
| 11月22日(金) | 台北／國民革命忠烈祠(写真①②) |
| 11月23日(土) | 屏東／東龍宮(写真③④)
高雄／保安堂(写真⑤⑥) |
| 11月24日(日) | 台南／海尾朝皇宮(写真⑦⑧)
台南／飛虎將軍廟(写真⑨⑩)
台南／八田與一ご夫妻墓所(「殉工碑」含む)(写真⑪⑫) |
| 11月25日(月) | 台中／宝覺寺(写真⑬⑭)
イ.日本人墓地(日本人遺骨安置所)
ロ.英魂観音亭と「靈安故郷」の慰霊碑
新竹／濟化宮(写真⑮) |
| 11月26日(火) | 烏來／高砂義勇隊戦没英霊記念碑(写真⑯) |



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮

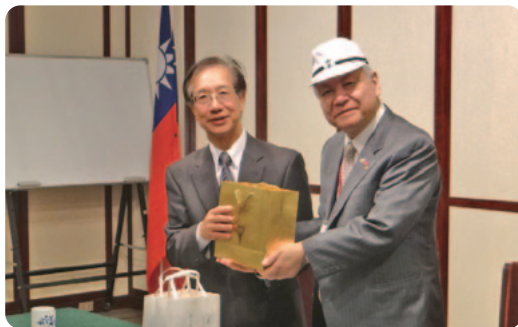


⑯



「領台時代の魂を継承する 現地台湾人との家族交流・兄弟交流」

- 11月22日(金) 台北／中華民国外交部(羅坤燦理事長)表敬訪問(写真①②)
台北／黄文雄先生による歓迎の夕食会／紫都(写真③④)
- 11月23日(土) 屏東／二峰圳・地下ダム(丁澈士先生)(写真⑤⑥)
高雄／黄明山・葉美麗ご夫妻による招待夕食会／
海大王澎湖海鮮餐廳(写真⑦⑧)
- 11月24日(日) 台中／台湾台日海交會(簡朝陽會長)主催の懇親会／
香蕉新樂園餐廳(写真⑨⑩)
- 11月25日(月) 台中／台湾中日海交協会(胡順來會長)主催の懇親会／
大北京晚餐廳(写真⑪⑫)
台北／台日文化經濟協會(黄天麟會長)主催の懇親会／
逸鄉園(写真⑬⑭)
- 11月26日(火) 烏來／酋長文化村(写真⑮⑯)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯

報告集(ライセンスメイト)について

私たちは、ひとりでも多くの国民の皆様へ「日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」を知っていただこうと、団員の皆様の感想文を主体にした報告集として、この季刊誌(第3種郵便物認可)を活用し今日に至っています。それは発送費が助かるからです。(発行所／株式会社日本教育開発)

- ◎この本は訪台時にご接待された台湾の皆様にも御礼として贈呈しますので、恥ずかしい装丁でないといけません。中華民国政府(外交部)にも献本できる資質が求められる所以です。
- ◎国内に目を転じれば、団員の皆様のご縁のある方に配付される時、誇りに思えるものでなければなりません。直近の出来事のみならず、この事業の沿革が一目で理解していただけるものでなくてはなりません。
- ◎読んでみたい雰囲気を漂わすだけでなく内容もしっかりしないとけません。デザイナーの人にも頑張ってもらい、様々な年代、職業、立場、地域の皆様へ、すなわち時代に受け入れてもらえるよう工夫と研究を重ねてきたのは、そういう理由からでした。
- ◎英霊の皆様から本当に喜んでもらえるような誌面作り、大東亜戦争に志願し散華された英雄の皆様が、世界史的大事業に参画できた感動を時空を超えて現代の私たち日本人に語りかけることができる媒体、戦死者にあたたくぬくもりのある刊行物、以上のような報告集作りを目指してきた16年でした。
- ◎結成以来、台湾でご縁の出来た方と訪問団に参加実績のある方を合わせますと優に1,000名になりますので、発行部数もそれだけ必要です。
- ◎刷っただけでは読んでいただけません。よって宅配や郵送、相手先が台湾なら航空便も必要です。
- ◎総じてこれら一切の経費を訪問団員の皆様が均等に負担していただいたからこそ、第15次に至るまでこの事業を継続してこれたのだと思います。(原稿料、執筆料は全てボランティアでお願いしてきました。)
- ◎「公的支援のない公的事業」は団員の皆様をはじめとする民間の熱きご支援なしには一日も立ちゆきません。

この雑誌を作ることは英霊への供養の一環でありますし、紙面をご覧いただくことは、現代に生きる私たちが戦没者の皆様と時間と空間と志(こころざし)を共有できる数少ない機会のひとつだと思います。

ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

平成11年	3月 6日	第1次訪問旅行(3.6~3.9、23名) ※「結団式・解団式」含む...1
	5月 15日	ライセンスメイトにて連載開始...2
	11月 25日	慰霊祭参加(台中・宝覺寺、11.24~11.26、2名)...3
平成12年	11月 23日	第2次訪問旅行(11.23~11.26、17名) ※「結団式・解団式」含む...4
平成13年	5月 28日	読売新聞に一面広告掲載...5
	6月 5日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...6
	10月 13日	第3次訪問結団式・壮行会(平和樓本店60名)...7
	11月 8日	二の丸会全国農業土木技術連盟九州業界連盟研修会 「世界一の親日国・台湾の話」講話:小菅玄三郎 随行: 古川(ホテル南風樓)...8
	11月 23日	第3次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...9
	12月 22日	第3次訪問結団式・報告会(平和樓本店50名)...10
平成14年	4月 1日	訪問団ホームページ開設...11
	4月 26日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...12
	6月 8日	許國雄先生告別式参列(高雄・徳生長老教会、6.7~ 6.9、1名)...13
	9月 10日	産経新聞に見開広告掲載...14
	10月 21日	全国の学校(8,443校)にパンフレットを郵送し、台湾 への修学旅行先選定を呼びかける ※全国の高等学校5,054校、県内の保育園から大学ま で3,389校...15
	11月 2日	第4次訪問結団式・壮行会(平和樓本店73名)...16
	11月 6日	台湾中日海交協会(胡順来会長以下16名)歓迎晩餐会 (台湾18名)...17
	11月 23日	第4次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...18
平成15年	1月 24日	第4次訪問結団式・報告会(平和樓本店48名)...19
	4月 26日	台湾在日福岡留学生会・新入生歓迎会参加(八仙閣1 名)...20
	6月 6日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...21
	6月 7日	第1回台湾特別講演会・懇親会(アーバン・オフィス天 神・講演会134名/懇親会36名) 山口秀範先生(国民文化研究会事務局長)「台湾に根づ く日本精神一六士先生を中心に」...22
	8月 6日	福岡市中央倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを 訪ねて」卓話:小菅玄三郎 随行:古川(KKRホテル博 多)...23
	11月 8日	第5次訪問結団式・壮行会(平和樓本店56名)...24
	11月 23日	第5次訪問旅行(11.23~11.26、23名)...25
平成16年	1月 24日	第5次訪問結団式・報告会(平和樓本店35名)...26
	2月 22日	第1回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、2.22~ 3.28、6回)...27
	4月 29日	台中市日本文化協会(鍾子桓氏以下3名)来訪...28
	5月 23日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣1 名)...29
	6月 5日	第2回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オ フィス天神83名/懇親会 花万葉54名) 張國興先生(久留米大学法学部教授)「台湾の現状—総 統選挙を中心に」...30
	6月 9日	福岡日華親善協会 定時総会参加(平和樓本店1名)... 31
	6月 20日	沈・呉ご夫妻来訪...32
	9月 9日	台湾福祉実習団(陳徹氏以下8名)来訪...33
	11月 12日	福岡日華親善協会孫中山先生並びに蒋介石先生生誕 記念祝宴参加(平和樓本店1名)...34
	11月 22日	第6次訪問結団式・壮行会(アーバン・オフィス天神6 名)...35
	11月 23日	第6次訪問旅行(11.23~11.26、8名)...36
	12月 26日	第2回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、12.26 ~H.17.1.2、2回)...37
平成17年	1月 3日	第1回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/ 西鉄グランドホテル4名)...38
	1月 22日	第6次訪問結団式・報告会(平和樓本店30名)...39
	6月 4日	第3回台湾特別講演会・懇親会(講演会 テルラホー ル100名/懇親会 チャタムダイニング70名) 黄文雄先生(文明史家)「反日教育を煽る中国の大罪— 中国が反日・仇日に転じた本当の理由」...40
	6月 10日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...41

平成17年	10月 22日	第7次訪問結団式・壮行会(平和樓本店51名)...42
	11月 5日	何・陳 ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)...43
	11月 14日	福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕 記念祝宴参加(八仙閣15名)...44
	11月 23日	第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)...45
	12月 11日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店1 名)...46
平成18年	1月 3日	第2回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/ 西鉄グランドホテル4名)...47
	1月 8日	第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1 回)...48
	1月 28日	第7次訪問結団式・報告会(テルラホール38名) ※「森清治顧問を偲ぶ会」兼ねる...49
	3月 22日	福岡ライオンズクラブ 例会「今、日本がおかしい〜現 代に生きる教育勅語・軍人勅諭」卓話:小菅玄三郎 随 行:川添(ホテル日航福岡)...50
	5月 14日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)... 51
	5月 15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...52
	6月 3日	第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オ フィス天神 156名/懇親会 テルラホール67名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾・中国が衝突する日—こ れからの台・中・日・米関係の徹底分析」...53
	6月 7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...54
	10月 1日	第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、特別篇第 5弾、10.1、1回)...55
	10月 21日	旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問結団式・壮行会(テルラホール70名)... 56
	11月 13日	福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕 記念祝宴参加(八仙閣1名)...57
	11月 20日	役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)...58
	11月 23日	第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)...59
平成19年	1月 3日	第3回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/ 西鉄グランドホテル4名)...60
	1月 7日	第5回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1 回)...61
	1月 27日	第8次訪問結団式・報告会(平和樓本店68名)...62
	3月 15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...63
	5月 20日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣2 名)...64
	6月 2日	第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラ ホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文明史家)「増大する覇権主義中国の軍事 的脅威—日台はいかに対応すべきか?」...65
	6月 13日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣2名)...66
	10月 5日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)...67
	10月 18日	REPの会例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」 卓話:小菅玄三郎 随行:林・吉村(パソナサロン)... 68
	10月 27日	旅程説明会(平和樓本店19名) 第9次訪問結団式・壮行会(平和樓本店49名)...69
	11月 23日	第9次訪問旅行(11.23~11.26、25名)...70
	12月 22日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店3 名)...71
平成20年	1月 3日	第4回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/ 西鉄グランドホテル4名)...72
	1月 25日	九州建設機械器具リース業協会賀詞交歓会「海の彼方 のニッポンを訪ねて」 講話:小菅玄三郎 随行:黄(八仙閣)...73
	1月 26日	第9次訪問結団式・報告会(平和樓本店51名)...74
	3月 9日	第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.9~ 4.13、6回)...75
	3月 15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...76
	6月 1日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)... 77

平成20年	6月	8日	第6回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会123名／懇親会63名) 黄文雄先生(文明史家)「日本人の道と精神(こころ)」 清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)「日本文化の本質を知ろうー新『教育勅語』のすめ」...78
	6月	17日	福岡日華親善協会 定時総会参加(全日空ホテル1名)...79
	9月	3日	台北駐福岡経済文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店7名)...80
	10月	9日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...81
	10月	25日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第10次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店48名) ※「東京支部・台湾支部設立」兼ねる...82
	11月	22日	第10次訪問旅行(11.22～11.26、31名) (A班11.22～26 19名、B班11.23～26、12名)...83
	12月	14日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...84
平成21年	1月	3日	第5回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名)...85
	1月	24日	第10次訪問団結団式・報告会(平和樓本店64名)...86
	2月	22日	第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、2.22～3.29、6回)...87
	3月	9日	台北駐福岡経済文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店8名)...88
	3月	15日	ライセンスメイト『台湾慰靈訪問団特集』発行...89
	5月	24日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店3名)...90
	6月	6日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉10名)...91
	6月	7日	第7回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会170名／懇親会69名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾と日米中の現在と未来ー台湾と中国の最終戦争は避けられるのか？」柳原憲一先生(西日本台湾学友会会長)「江見政治と竹東大圳ー今、甦る台湾水力発電の父」...92
	8月	14日	産経新聞で「NHKは台湾人に謝罪を！」意見広告掲載...93
	9月	7日	李登輝元総統お出迎え(福岡空港43名)...94
	9月	10日	李登輝元総統お見送り(福岡空港26名)...95
	9月	30日	産経新聞で第2回目の「NHKは台湾人に謝罪を！」意見広告掲載...96
	10月	31日	産経新聞で第3回目の「NHKは台湾人に謝罪を！」意見広告掲載...97
	11月	1日	旅程説明会(平和樓本店20名) 第11次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)...98
	11月	21日	産経新聞で「台湾の国連専門機関参加」支援広告掲載...99
	11月	22日	第11次訪問旅行(11.22～11.26、30名)...100
	11月	29日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(八仙閣3名)...101
	12月	20日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...102
平成22年	1月	3日	第6回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名)...103
	1月	3日	第8回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、年末年始篇第9弾、1.3、1回)...104
	1月	23日	第11次訪問団結団式・報告会(平和樓本店61名)...105
	1月	30日	日本会議福岡中央支部 新春祝賀会「日台の交流ー11年の活動を振り返って」 講話：小菅玄三郎 随行者：黄・五郎丸(平和樓本店)...106
	2月	21日	産経新聞で「慰霊を回復して人は国民になる」意見広告掲載...107
	3月	7日	第7回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.7～4.11、6回)...108
	3月	10日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(稚加栄、4名)...109
	3月	13日	林溪和先生告別式参列(台中・三一基督長老教会、3.13～3.14、2名)...110
	3月	15日	ライセンスメイト『台湾慰靈訪問団特集』発行...111
	3月	21日	産経新聞で「明石元二郎台湾総督に対する福岡市教育委員会への態度には愛国心が感じられません」意見広告掲載...112
	5月	16日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...113

平成22年	6月	5日	第8回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会172名／懇親会58名) 明石元紹先生(明石元二郎令孫・画家)黄文雄先生(文明史家) 「郷土福岡が生んだ世界的英雄・偉人一明石元二郎台湾総督の生涯」...114
	6月	27日	台北駐福岡経済文化辦事處 周碩穎處長送別会(団長名12名)...115
	8月	4日	産経新聞で「日台の生命の絆死守せむと吾日本の一角に起つ」意見広告掲載...116
	9月	25日	日本会議福岡中央支部 西部地区懇談会「日本と台湾は運命共同体ー台湾防衛は英霊との約束」 講話：小菅玄三郎 随行者：原田・池田・黄(アーバン・オフィス天神)...117
	10月	8日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ12名)...118
	10月	14日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長歓迎会(松幸26名)...119
	10月	23日	旅程説明会(平和樓本店21名) 第12次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店63名)...120
	11月	21日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...121
	11月	22日	第12次訪問旅行(11.22～11.26、46名)(A班11.22～26 35名、B班11.24～26 11名)...122
平成23年	1月	3日	第7回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名)...123
	1月	22日	第12次訪問団結団式・報告会(平和樓本店65名)...124
	2月	23日	福岡西ライオンズクラブ 例会「教育勅語・軍人勅諭」 卓話：小菅玄三郎 随行者：高山(西鉄グランドホテル)...125
	3月	15日	台北駐那覇経済文化辦事處 粘信士處長表敬訪問(3.15～3.16、4名)...126
	4月	3日	第10回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.3～5.8、6回)...127
	4月	23日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...128
	5月	28日	産経新聞で「日本の為に従軍して戦死された台湾人の慰霊に参加するのは日本人の義務である」意見広告掲載...129
	6月	4日	第9回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会159名／懇親会71名) 黄文雄先生(文明史家)「中国が沖縄を獲る日ー中国の「千船保釣」を打ち砕こう！」...130
	6月	12日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店7名)...131
	6月	13日	ライセンスメイト『台湾慰靈訪問団特集』発行...132
	6月	24日	産経新聞で「奉納した龍柱と銘板に感動」意見広告掲載...133
	7月	3日	中華民国建国100年「聖火リレー」福岡到着記念撮影会参加(福岡市南公園2名)...134
	7月	6日	あすなろ会 例会「台湾はなぜ世界一の親日国なのかー日華(台)親善友好慰靈訪問団団長12年の体験から」卓話：小菅玄三郎 随行者：池田・黄・五郎丸・高山(ハーベストビル会議室)...135
	7月	24日	産経新聞で「真実で尊い行動は必ず継続される」意見広告掲載...136
	8月	21日	産経新聞で「台湾との絆の強化は日本再生への道」意見広告掲載...137
	9月	13日	福岡県立嘉穂高等学校修学旅行事前学習「台湾修学旅行ー台湾はどういう国なのか」講話：黄楷 随行者：池田(視聴覚教室)...138
	9月	29日	産経新聞で「魂の奥の不思議なふれあいを感じる唯一の国・台湾」意見広告掲載...139
	10月	7日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...140
	10月	17日	産経新聞で「台湾での新発見、そして再発見」意見広告掲載...141
	10月	22日	旅程説明会(平和樓本店26名) 第13次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店67名)...142
	11月	20日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...143
	11月	21日	産経新聞で「日本人は真の親日国家である台湾を見誤ることなかれ」意見広告掲載...144
	11月	21日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長主催懇親会(鴻臚6名)...145

平成23年	11月22日	第13次訪問旅行(11.22~11.26、45名)(A班11.22~26 38名、B班11.24~26 7名)...146
	11月22日	産経新聞九州総局 野口裕之総局長を囲む会(セントラルホテル10名)...147
	12月25日	産経新聞で「日本語世代の方はかけがえのない日本の宝です」意見広告掲載...148
平成24年	1月 3日	第8回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名)...149
	1月 6日	中華民国建国100年祝賀式典参加(ホテルオークラ1名)...150
	1月19日	台北駐福岡経済文化辦事處餐會念祖處長謝恩新年会(千羽鶴6名)...151
	1月21日	第13次訪問団解団式・報告会(平和樓本店65名)...152
	1月26日	産経新聞で「日本人のアイデンティティを取り戻す巡礼の旅」意見広告掲載...153
	2月22日	産経新聞で「この度の総統選挙のご当選、誠にめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。」意見広告掲載...154
	3月25日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...155
	4月 1日	第9回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.1~5.6、6回)...156
	4月29日	産経新聞で「第10回台湾特別講演会」意見広告掲載...157
	5月13日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...158
	5月16日	台湾總統就任記念茶話会参加(平和樓本店3名)...159
	6月 1日	産経新聞で「『恥ずかしい』と『感謝』の訪問」意見広告掲載...160
	6月 2日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉13名)...161
	6月 3日	第10回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会167名／懇親会79名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「日本と台湾の過去・現在・未来～私たちが目指すべき日台の関係」 ／パネルディスカッション:黄文雄先生(文明史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「東日本大震災から見た日台の生命の絆～台湾国民は何故世界一のご支援をして下さったのか」...162
	6月 7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...163
	6月15日	ライセンズメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...164
	7月15日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(1)」意見広告掲載...165
	7月16日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆(2)」意見広告掲載...166
	10月 5日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ5名) ※主催者より直接案内送付のため、今回から反省会参加者とする...167
	10月 6日	台湾支部事務局長(黄楷)婚約式参列(高雄・饌巴黎大飯店、10.6~10.8、2名)...168
	10月13日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第14次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店69名)...169
	10月26日	台湾支部事務局長(黄楷)結婚式参列(基隆・豪鼎飯店、10.26~10.28、2名)...170
	11月 8日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(江藤家、4名)...171
	11月18日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...172
	11月22日	第14次訪問旅行(11.22~11.26、38名)(A班11.22~26 32名、B班11.24~26 6名)...173
	12月23日	第12回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、年末年始第12弾、12.23、1回)...174
平成25年	1月 3日	第9回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名)...175
	1月26日	第14次訪問団解団式・報告会(平和樓本店73名)...176
	2月23日	台北駐福岡経済文化辦事處 曾念祖處長送別会(千羽鶴13名)...177
	2月24日	第13回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.24~3.31、6回)...178
	3月 6日	福岡日華親善協会 台北駐日経済文化代表處 沈斯淳代表歓迎宴参加(ホテル日航福岡1名)...179

平成25年	3月20日	日台交流教育会 創立40周年記念懇親会参加(アルカディア市ヶ谷1名)...180
	3月26日	第11回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン・オフィス天神15名)...181
	4月23日	第11回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン・オフィス天神17名)...182
	5月28日	第11回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバン・オフィス天神 20名)...183
	6月 1日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉10名)...184
	6月 2日	第11回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会195名／懇親会134名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「思想的背景から見た日台の魂の交流～日本人の生と死を見つめながら魂の深層を探る」／パネルディスカッション:黄文雄先生(文明史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「今後の日本と台湾の真の交流について～私たちがめざすべき日台の関係」...185
	6月 3日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)美祢市表敬訪問...186
	6月 4日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)山口市表敬訪問...187
	6月 4日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)慰労会(団長宅 11名)...188
	6月15日	第11回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン・オフィス天神 22名)...189
	6月15日	ライセンズメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...190
	6月16日	ニュー有楽会お別れ総会参加(平和樓本店 1名)...191
	6月21日	台北駐福岡経済文化辦事處蔡戎義俊處長歓迎会(千羽鶴 18名)...192
	6月29日	林德華先生告別式参列(台中・林家宅、6.28~6.30、3名)...193
	6月29日	御創立記念日献詠披露式出席(靖国神社、6.29~6.30、1名)...194
	6月30日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...195
	7月18日	台北駐福岡経済文化辦事處蔡戎義俊處長主催懇親会(Sol 9名)...196
	10月 4日	台湾双十節式典参加(グランドハイアット 12名)...197
	10月12日	旅程説明会(平和樓本店 9名) 第15次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 69名)...198
	10月20日	台日文化交流会 許世楷先生講演会参加(西南学院大学コミュニティセンター 1名)...199
	11月 1日	中華民国(台湾)福岡領事着任をお祝いする会(花万6名)...200
	11月10日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店 5名)...201
	11月22日	第15次訪問旅行(11.22~11.26、32名)(A班11.22~26 28名、B班11.24~26 4名)...202
	12月29日	高雄市鳳山紅毛港保安堂安座式典参加(12.28~12.30 3名)...203
平成26年	1月 3日	第10回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄グランドホテル4名)...204
	1月25日	台北駐福岡経済文化辦事處 戎義俊處長主催送別会(處長公邸2名)...205
	1月25日	第15次訪問団結団式・報告会(平和樓本店63名)...206
	2月23日	第14回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、2.23~3.30、6回)...207
	3月23日	東龍宮(石羅界堂守以下6名)歓迎晩餐会(千羽鶴8名)...208
	3月26日	第12回台湾特別講演会実行委員会(アーバン・オフィス天神17名)...209
	3月27日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(花万3名)...210
	3月29日	富安宮新廟落慶法要参列(嘉義・富安宮1名)...211
	4月22日	第12回台湾特別講演会・実行委員会(アーバン・オフィス天神23名)...212
	4月27日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣3名)...213

り、政治的公明性や道徳的高みにおいてもアジア史を変えるにふさわしい金字塔でした。今日のアジア情勢を俯瞰するに、先の大戦の契機となった「米英を「支那・中共」と置きかえて見れば尚更わかりやすいのではないのでしょうか。

かつてわが国は欧米列強の重圧を撥ね退け、近代国家として自立すべく、明治維新を成し遂げました。その中で明治天皇は、慶応四年に「五箇条の御誓文」を布告、明治十三年に「軍人勅諭」を下賜、明治二十二年に「大日本帝國憲法」を發布、そして明治二十三年に「教育勅語」を頒布されました。当時では常備軍と近代法、そして国民教育制度を具備した形としては、わが国は有色人種唯一の国家だったのです。その明治の先達が朝鮮半島の自立を賭けた戦いである日清戦争で勝利したが故に、台湾はわが国に割譲されたのです。

爾来、日台両民族の渾身の努力により、台湾はわが国でも有数の慈愛溢れる豊かな地域となりました。それは、欧米諸国の羨望的となり、朝鮮半島や支那大陸における満州国と同様、国家建設のお手本とされるまでになりました。とりわけ台湾の皆様は「信義」を理解し、私たち日本人と接する中で、武徳の資質を瞬く間に習得されたのです。

本日私たちは台湾の国づくりに全力を奮わただけでなく、大東亜宣言の完遂にむけて血書嘆願までされ、応召され、わが国・日本の国軍兵士として、また軍属として命を楯に決然起つて散華された同胞を供養するため、はるばる日本からやつて参りました。

元日本兵軍人軍属として世界史を変革する表舞台に立たれ、戦没された原台湾人の皆様、私たちは平成十一年以来、宝覺寺における大慰霊祭に参列させていただき、三万三千余柱の御霊の安らかならんことをお祈りしてまいりました。今後も、この顕彰事業を風化させることなく、更に充実・拡大し若い世代に継承していきます。それはこの道こそが「日本人として散華された英霊」にお応えする務めであるからです。

以上の決意も新たにわが国の近代史に比類なき勇氣と獻身を刻まれた英霊のご遺徳を偲び、御霊の平安を心より祈念し、慰霊の言葉といたします。

日台の生命の絆

死守せむと

吾日本の一角に起つ

平成二十五年

民國百二年

皇紀二千六百七十三年

十二月二十五日

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

台湾訪問の旅 訪台者一覧 (第1次より第15次までの団員262名)

青木 繁政
赤松 公昭
浅見 晃甲
浅部 敏彦
安部 雅俊
荒津 雅也
荒牧 賢二
有吉 忠助
有吉 弘子
安藤 政明
安藤 由紀子
飯島 志津子
家村 茂美
池田 裕二
石川 秀久
石原 章臣
石原 一二三
石原 祐教
石原 憲三
伊藤 清子
市来 徹夫
井手 田洋基
稲田 健二
井上 俊治
井上 昌俊
井上 誠二
井口 セツ子

井原 四郎
今村 之昭
岩淵 宣仁
岩元 宣周
岩本 宣善
ウイクラスレンドラサーニ
牛島 康智
江頭 伸一
江崎 君公
エドワーズ博美
大嶋 俊英
太田 玲子
太塚 ヨシ子
大西 敬吾
大西 雅樹
大橋 昭仁
大庭 道夫
大林 さやか
緒方 俊美
小倉 弘子
小倉 美帆
小副川 克江
鬼塚 芳治
小野 辰治
小野 正明
小野 実里

小濱 善和
折居 一志
折居 正規
柿元 慎司
柿藤 聖三
梶栗 勝敏
柏原 正弘
金澤 明夫
金澤 千代美
金澤 礼
金子 孝夫
亀淵 武士
亀淵 喜久子
茅野 輝章
茅野 紀子
河野 一寿
神田 橋勉
木須 治彦
北浜 道
木付 辰生
城所 靖子
木下 尚代
木村 嘉平
木村 権作
木村 賢二
木村 秀人
木村 孝

清瀬 武子
清瀬 空
桐野 尚枝
桐野 隆徳
國武 利貴
國友 健男
久保 聡子
黒田 務
小池 房子
黄 楷
古賀 誠
古賀 靖啓
小菅 紀武
小菅 亥三郎
小菅 順子
小辨野 聖也
小松 友子
小松 正隆
小柳 陽太郎
五郎丸 浩
五郎丸 美佐江
坂田 弘
坂田 照子
阪中 三幸
坂本 彰
櫻井 英夫
佐護 美和子

佐々木 建城
佐々木 朗子
佐々木 佳重
佐竹 聖子
佐竹 秀三
佐竹 冬子
佐藤 正子
佐藤 吉彦
讃井 健三
塩先 晋照
重松 源吉
重松 博子
篠原 章好
柴田 知則
柴田 好章
島 啓三
島 むつみ
下田 健一
下田 純子
白水 キミ子
新谷 章
菅沼 寛
菅沼 由美
杉山 雄一
角 洋一郎
妹尾 和之
高須賀 俊一

「謹んで祭文を奏上いたします」

『抑々世界各国が各々其の所を得、相倚り相扶けて萬邦共榮の業を偕にする』は世界平和確立の根本要義なり。然るに米英は自國の繁榮の爲には他國家、他民族を抑圧し、特に大東亞に対しては飽くなき侵略擄取を行ひ、大東亞隸屬化の野望を逞しうし、遂には大東亞の安定を根底より覆さんとせり。大東亞戰爭の原因ここに存す。大東亞各國は相提携して大東亞戰爭を完遂し、大東亞を米英の桎梏より解放して、其の自存自衛を全うし、左の綱領に基き大東亞を建設し以て世界平和の確立に寄与せんことを期す。

一、大東亜各国は協同して大東亜の安定を確保し、道義に基く共存共栄の秩序を建設す

一、大東亜各国は相互に自主独立を尊重し互助敦睦の実を挙げ、大東亜各国の親和を確立す

一、大東亜各国は相互に其の博統を尊重し、各民族の創造性を伸張し、大東亜の文化を昂揚す

一、大東亜各国は互恵の下緊密に提携し、其の経済発展を図り、大東亜の繁栄を増進す

一、大東亜各国は萬邦との交誼を篤うし、人種的差別を撤廃し、普く文化を交流し、進んで資源を開放して以て世界の進運に貢獻す』

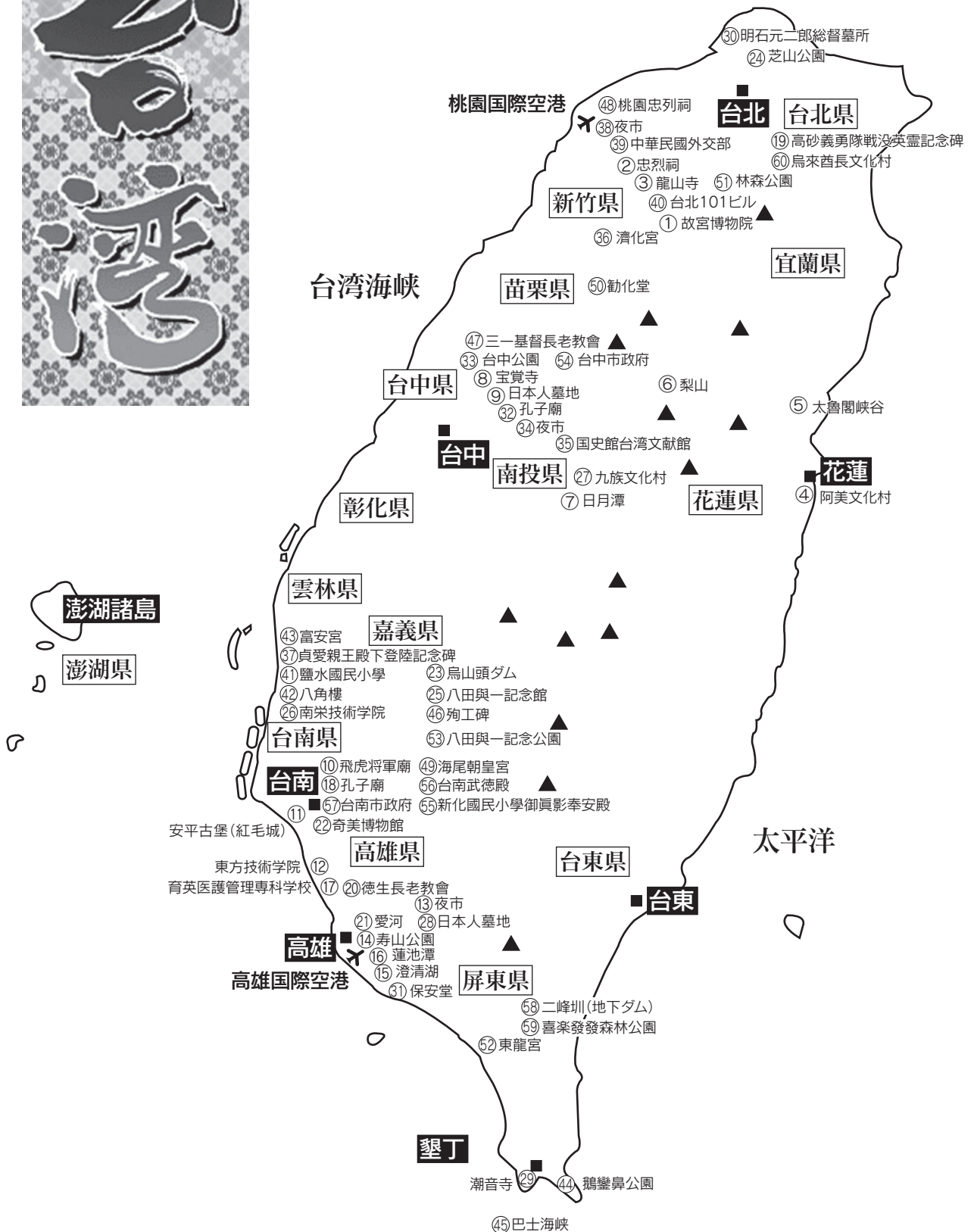
これは今を遡ること七十年前の今月六日、すなわち昭和十八年十一月六日に東京で開催された大東亜会議において採択された共同宣言です。

わが国・日本は昭和十六年十二月八日、マレー半島・コタバル上陸を開始された大東亜戦争で、東アジアに展開された欧米列強による植民地支配を悉く覆しました。以降約二年に亘る軍事的勝利を踏まえ、わが国は「民族解放・民族自決の大号令」を発しました。中華民国（王精衛）、タイ（ワンウィタイヤコン）、満州国（張景惠）、フィリピン（ラウエル）、ビルマ（バー・モウ）、自由印度仮政府（チャンドラ・ボーズ）と、実に軍政下にあったインドネシアを除くすべてのアジアの人々がこの理念のもとに結集したのです。

平成二十五年の今日、七十年前のこの宣言を顧みるに、その時代的先見性はもとよ

高田	信一
高野	治之
高橋	成子
高原	裕之
田尻	雄一
田中	伯央
田中	純夫
田中	秀男
田中	キミヨ
田中	美咲
田中	道夫
田中	秀幸
谷 亜	希子
谷尾	侃
谷口	祐子
村田	邦明
反田	邦彦
反田	由美子
團 宝	誠
陳 怡	勲
塚田	征二
塚本	能久
辻森	弘美
土山	彬
鶴 修	輔
鶴田	栄一郎
出口	清

<http://taiwan.l-mate.net> 祭文／台灣訪問の旅 訪台者一覽



〈一目でわかる訪問先・交歓先〉

〈訪問先〉（訪問年月日順／日付は初回訪問日）

- ①故宮博物院／H11.3.6
- ②忠烈祠／H11.3.6
- ③龍山寺／H11.3.6
- ④阿美文化村／H11.3.6
- ⑤太魯閣峽谷／H11.3.7
- ⑥梨山／H11.3.7
- ⑦日月潭／H11.3.7
- ⑧宝覺寺／H11.3.8
- ⑨日本人墓地(台中)／H11.3.8
- ⑩飛虎將軍廟／H11.3.8
- ⑪安平古堡(紅毛城)／H11.3.8
- ⑫東方技術学院(旧東方工商専科学学校)／H11.3.8
- ⑬夜市(高雄・六合路)／H11.3.8
- ⑭寿山公園／H11.3.9
- ⑮澄清湖／H11.3.9
- ⑯蓮池潭／H11.3.9
- ⑰育英医護管理専科学学校／H12.11.24
- ⑱孔子廟(台南)／H12.11.24
- ⑲高砂義勇隊戦没英霊記念碑／H13.11.26
- ⑳徳生長老教會／H14.6.8
- ㉑愛河／H14.11.23
- ㉒奇美博物館／H14.11.24
- ㉓烏山頭ダム(烏山頭水庫)／H14.11.24
- ㉔芝山公園／H14.11.26
- ㉕八田與一記念館／H15.11.24
- ㉖南栄技術学院／H15.11.24
- ㉗九族文化村／H15.11.25
- ㉘日本人墓地(高雄)／H16.11.23
- ㉙潮音寺／H16.11.24
- ㊀明石元二郎総督墓所／H16.11.26
- ㊁保安堂／H17.11.23
- ㊂孔子廟(台中)／H17.11.25
- ㊃台中公園／H17.11.25
- ㊄夜市(台中・中華路)／H17.11.25
- ㊅国史館台湾文献館／H17.11.25
- ㊆濟化宮／H17.11.25
- ㊇貞愛親王殿下登陸記念碑／H19.11.24
- ㊈夜市(台北・士林区)／H19.11.25
- ㊉中華民国外交部／H19.11.26
- ㊊台北101ビル／H19.11.26
- ㊋鹽水國民小學／H20.11.24
- ㊌八角樓／H20.11.24
- ㊍富安宮／H20.11.24
- ㊎鵝鑾鼻公園／H21.11.23
- ㊏巴士海峡／H21.11.23
- ㊐殉工碑／H21.11.24
- ㊑三一基督長老教會／H22.3.13

- ㊒桃園忠烈祠／H22.3.14
- ㊓海尾朝皇宮／H22.11.23
- ㊔勸化堂／H22.11.25
- ㊕林森公園／H23.11.22
- ㊖東龍宮／H23.11.23
- ㊗八田與一記念公園／H23.11.24
- ㊘台中市政府／H23.11.24
- ㊙新化國民小學御眞影奉安殿／H24.11.23
- ㊚台南武徳殿／H24.11.23
- ㊛台南市政府／H24.11.23
- ㊜二峰圳(地下ダム)／H25.11.23
- ㊝喜楽發發森林公園／H25.11.23
- ㊞烏來酋長文化村／H25.11.26



現地メディアの取材を受ける小菅団長(台北)

〈交歓先〉（交歓年月日順／日付は初回交歓日）

- 許國雄先生／H11.3.8
- 台湾中日海交協会／H11.11.24
- 蘇金淵先生／H11.11.25
- 蕭興從先生／H11.11.25
- 詹徳寛先生／H14.11.23
- 許文龍先生／H14.11.24
- 何怡涵・陳清華ご夫妻／H15.11.24
- 台灣台日海交會(旧「台灣台日海交聯誼會」)／H16.11.24
- 台中市日本文化協會／H16.11.25
- 王春茂・馮英鳳ご夫妻／H16.11.25
- 沈芳以・呉月雲ご夫妻／H17.11.25
- 蔡焜燦先生／H18.11.26
- 台日文化經濟協會／H18.11.26
- 黄明山・葉美麗ご夫妻／H20.11.24
- 黄崑虎先生／H21.11.24
- ラバウル會／H22.11.24
- 陳玉梅先生／H24.11.26
- 黄文雄先生／H25.11.22

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
第1次訪問 23名 H.11.3.6～9 土～火 ガイド 李 燕光 神僧職 なし 旅行社 ヤマトトラベル (15ヶ所)	①故宮博物院 ②忠烈祠 ③龍山寺 ④阿美文化村 (花蓮泊)	⑤太魯閣峡谷 ⑥梨山 ⑦日月潭 (日月潭泊)	⑧宝覺寺 ⇒日本人墓地(慰霊式) ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩安平古堡 ⑪東方工商専科学学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑫夜市 (高雄泊)	⑬寿山公園 ⑭澄清湖 ⑮蓮池潭
第2次訪問 17名 H.12.11.23～26 木～日 ガイド 陳 賜賢 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④育英医護管理専科学学校 ⇒東方工商専科学学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑤孔子廟 ⑥安平古堡 ⑦飛虎將軍廟(慰霊式) (台中泊)	⑧宝覺寺⇒ 日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	
第3次訪問 38名 H.13.11.23～26 金～月 ガイド 陳 賜賢 神僧職 古賀靖啓 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①故宮博物院 ②夜市 (高雄泊)	③東方工商専科学学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ④孔子廟 ⑤安平古堡 ⑥飛虎將軍廟(神事) (台中泊)	⑦宝覺寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭／神事) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	⑨高砂義勇隊戦没英霊 記念碑(神事)
第4次訪問 38名 H.14.11.23～26 土～火 ガイド 呂 見清 神僧職 古賀靖啓・田村邦明 旅行社 近畿日本ツーリスト (12ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③愛河⇒交歓会 (詹徳寛先生) ④夜市 (高雄泊)	⑤孔子廟 ⑥奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ⑦飛虎將軍廟(神事) ⑧烏山頭ダム (台中泊)	⑨宝覺寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭／神事) ⑩交歓会(台湾中日海交協会) ⑪日月潭 (台中泊)	⑫芝山公園(慰霊式)
第5次訪問 23名 H.15.11.23～26 日～水 ガイド 呂 見清 神僧職 堀川克巳 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①飛虎將軍廟 (神事) (台南泊)	②烏山頭ダム⇒八田與一・ 外代樹夫妻墓所(神事) ⇒八田與一記念館 ③奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ④南栄技術学院 ⑤交歓会(何怡涵・陳清華 ご夫妻) (台中泊)	⑥宝覺寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭／神事) ⑦九族文化村 ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台中泊)	⑨芝山公園(慰霊式)
第6次訪問 8名 H.16.11.23～26 火～金 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (11ヶ所)	①日本人墓地 (慰霊式) ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④潮音寺(慰霊式) ⑤飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥交歓会(台湾台日海交聯 誼會) (台中泊)	⑦宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) ⑨交歓会(台中市日本文化協会) ⑩交歓会(王春茂・馮英鳳ご夫妻)	⑪明石元二郎総督墓所 (慰霊式)

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第7次訪問 20名 H.17.11.23～26 水～土 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト	①保安堂(献花式) ②寿山公園 ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	④飛虎將軍廟(慰靈式) ⑤奇美博物館 ⑥烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式) ⑦交歓会(台灣台日海交聯誼會)	⑧宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑨交歓会(台灣中日海交協会) ⑩交歓会(台中市日本文化協會)⇒孔子廟⇒台中公園 ⑪交歓会(沈芳以・呉月雲ご夫妻) ⑫夜市	⑬明石元二郎総督墓所(慰靈式) ⑭芝山公園(慰靈式)	
(14ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台中泊)		
第8次訪問 35名 H.18.11.23～26 木～日 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光	①保安堂(慰靈式) ②交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	③飛虎將軍廟(慰靈式) ④奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ⑤烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式)⇒八田與一記念館 ⑥交歓会(台灣中日海交協会)	⑦宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑧交歓会(台灣台日海交會)※台中市日本文化協會合流 ⑨國史館台灣文獻館(調査) ⑩清化宮(献花式)	⑪高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰靈式) ⑫講話(蔡焜燦先生)⇒交歓会(台日文化經濟協會)	
(12ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)		
第9次訪問 25名 H.19.11.23～26 金～月 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光	①保安堂(慰靈式) ②奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	④飛虎將軍廟(慰靈式) ⑤烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式)⇒八田與一記念館 ⑥貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑦交歓会(台灣台日海交會)※台中市日本文化協會合流	⑧宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑨交歓会(台灣中日海交協会) ⑩清化宮(献花式) ⑪夜市	⑫中華民國外交部 ⑬台北101ビル ⑭交歓会(台日文化經濟協會)	
(14ヶ所)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)		
第10次訪問 31名 H.20.11.22～26 土～水 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰靈式) ②芝山公園(慰靈式)	③保安堂(慰靈式) ④東方技術学院 ⑤奇美博物館⇒交歓会(許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰靈式) ⑦交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻)	⑧烏山頭ダム⇒八田與一・外代樹夫妻墓所(慰靈式)⇒八田與一記念館 ⑨鹽水國民小學⇒八角樓 ⑩交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) ⑪貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑫富安宮 ⑬交歓会(台灣台日海交會)	⑭宝覺寺⇒日本人墓地(慰靈式)⇒靈安故郷碑(慰靈祭) ⑮交歓会(台灣中日海交協会) ⑯清化宮(献花式) ⑰夜市	⑱中華民國外交部 ⑲交歓会(台日文化經濟協會)
(19ヶ所)	(台北泊)	(台南泊)	(台中泊)	(台北泊)	

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第11次訪問 30名 H21.11.22～26 日～木 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) (墾丁泊)	②鵝鑾鼻公園 ③潮音寺(慰霊式) ④巴士海峡(献花式) ⑤奇美博物館→ 交歓会(許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) ⑧夜市 (高雄泊)	⑨烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→殉工碑(献花式)→八田與一記念館 ⑩交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) ⑪鹽水國民小學(歓迎式典)→八角樓 ⑫交歓会(黃崑虎先生) ⑬交歓会(台灣台日海交會) (台中泊)	⑭宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑮孔子廟 ⑯交歓会(台湾中日海交協会) ⑰濟化宮(献花式) (台北泊)	⑱高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会(台日文化經濟協會)
第12次訪問 46名 H22.11.22～26 月～金 ガイド 簡 添宗 徐 永隆 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (19ヶ所)	①芝山公園(慰霊式) ②講話(蔡焜燦先生) (台北泊)	③烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→殉工碑(献花式)→八田與一記念館 ④交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) ⑤海尾朝皇宮(献花式)→飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰霊式) ⑦交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑧鹽水國民小學(歓迎式典) ⑨交歓会(ラバウル会) ⑩宝覺寺(A班)、台中公園(B班) ⑪交歓会(台灣台日海交會) ⑫夜市 (台中泊)	⑬宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海交協会) ⑮勸化堂(献花式) ⑯濟化宮(献花式) (台北泊)	⑰高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⑱中華民國外交部 ⑲交歓会(台日文化經濟協會)
第13次訪問45名 H23.11.22～26 火～土 ガイド 簡 添宗 呂 芳儀 神僧職 塩先晋照 旅行社 JTBトラベル九州 (17ヶ所)	①中華民國外交部 ②高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ③交歓会(台日文化經濟協會) ④林森公園 (台北泊)	⑤飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ⑦東龍宮(慰霊式) ⑧交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑨保安堂(慰霊式) ⑩烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→殉工碑(献花式)→八田與一記念館 ⑪台中市政府 ⑫交歓会(台灣台日海交會) (台中泊)	⑬宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) (台北泊)	⑯明石元二郎総督墓所(慰霊式) ⑰芝山公園(慰霊式)
第14次訪問38名 H24.11.22～26 木～月 ガイド 簡 添宗 曾 英明 神僧職 なし 旅行社 JTB九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	③東龍宮(慰霊式) ④新化國民小學御眞影奉安殿 ⑤台南武徳殿 ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦台南市政府 (台南泊)	⑧鹽水國民小學(歓迎式)→八角樓 ⑨貞愛新王殿下陸記念碑(献花式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台灣台日海交會) (台中泊)	⑫宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会(台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化經濟協會) (台北泊)	⑰芝山公園(慰霊式) ⑱中華民國外交部 ⑲林森公園 ⑳交歓会(蔡焜燦先生・黃文雄先生)

※ ➔について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第15次訪問 32名 H25.11.22～26 金～火 ガイド 簡 添宗 謝 添基 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (16ヶ所)	①忠烈祠(献花式) ②中華民国外交部 ③林森公園 ④交歓会(黃文雄先生)	⑤二峰圳(地下ダム) ⇒喜樂發森林公園 ⑥東龍宮(慰霊式) ⑦保安堂(慰霊式) ⑧交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻)	⑨海尾朝皇宮(献花式) ⇒飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩烏山頭⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式) ⇒殉工碑(献花式) ⇒八田與一記念館⇒八田與一記念公園 ⑪歓迎会(台湾台日海交會)	⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故鄉碑(慰霊祭) ⇒台中公園 ⑬交歓会(台湾中日海交協會) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會)	⑯高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⇒酋長文化村
	(台北泊)	(高雄泊)	(台中泊)	(台北泊)	



宝覺寺での地元テレビ局の取材風景



慰霊祭に参加する甲飛喇叭隊第11分隊

この度の講演会開催にあたり物心両面にわたって
多大なご支援をいただいた皆様に心から御礼申し上げます。

■特別協賛：台北駐福岡経済文化辦事處／九州不動産専門学院／九栄会(九州不動産専門学院グループ同窓会)／山口県日台交流協会／関家具／濱崎理想瓦製造所／近畿日本ツーリスト九州福岡支店

■協 賛：福岡教育連盟／美祢市総合観光部／H A S／国際不動産鑑定所／甲斐歯科クリニック／小島テナント事務所／悠悠／大道印刷

■後 援：産経新聞九州総局／福岡市議会日台友好議員連盟／日本会議地方議員連盟／日本会議福岡／台湾在日福岡留学生会／福岡県神社廳／福岡県護國神社／英霊にこたえる会福岡県本部／福岡県海友会／福岡県郷友連盟／水交会福岡支部／甲飛喇叭隊第11分隊／大野城市国際交流協会／福岡日華親善協会／福岡県中華總會／西日本台湾学友会／福岡県モラロジー協議会／日本協議会福岡県支部／教育研究会未来／スタジオ日本日曜討論番組を支える会／チャイナエアライン／エバー航空／紅乙女酒造

■現地協力：台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 台南・飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 苗栗・勸化堂 新竹・濟化宮 台北・烏來高砂義勇隊紀念協會 台南・嘉南農田水利協會(烏山頭水庫・八田與一紀念館・八田與一紀念公園)

<慰霊祭主催団体> 台中・台湾台日海交會 台中・台湾中日海交協會

<交流団体> 台北・台日文化經濟協會 台南・奇美基金會(奇美博物館) 台南・鹽水國民小學

■企画運営：第12回台湾特別講演会実行委員会

第15次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 帰朝報告

期間 平成二十五年十一月二十二日（金）～二十六日（火）

参加者 三十二名

■ 十一月二十二日（金）

総勢三十二名の今次訪問団員のうち、二十二日福岡出発の二十二名は、八時に福岡空港国際線出発ロビーに集合し、搭乗手続きを終えた後、VIPルームで簡単な出発式を行いました。訪問の意義、団員・役員の紹介、注意事項・お土産の説明、記念写真の撮影を手短かに済ませ、四泊五日の旅の期待を胸に、手荷物検査場へと向かいました。

出国手続きを済ませた一行は、十時十分発のチャイナエアライン111便で空路北へ向けて旅立ちました。機内食をいただいて寛いだ後、現地時間十一時二十五分に無事桃園国際空港に到着しました。入国手続きを済ませて空港待合室に出ると、今回で八度目となるガイドの簡添宗さんや新亜旅行社の呉志仁さん等の暖かい出迎えを受けました。早速一行は専用バスに乗り込み、簡さんの懐かしい訃りの歓迎の挨拶を聞きながら、羽田空港出発組と合流するために松山空港へと向かいました。松山空港で羽田出発の永石辰郎名誉顧問と松下美佳さん、そして五日間同行してくれる黄楷茶台湾支部事務局長等が合流すると、車内はひときわ賑やかになりました。

忠烈祠で国賓級の待遇に感銘

特に今回は、訪問団結成十五周年を記念し、訪問初日に台北の忠烈祠を参拝し、中華民國の戦没者に哀悼の意を表しました。忠烈祠に着くと、中部国際空港から参加の石原祐教さんと山本正さんが待っておられ、全員が揃いました。福岡の辦事處（領事館）を通じての正式な表敬訪問でしたので、忠烈祠の楊光耀管理組長に案内されて献花式場へ到着しました。一行が見守る中、小菅団長が正式な作法で中華民國烈士に花環を奉げ、厳かな雰囲気ですべて献花式を終えました。その後一般の人は通行できない順路で諸堂を巡

り、衛兵の交代式を見学させていただきました。大東亜戦争で日本人として闘い、散華された英霊を顕彰することを主目的とした私たち訪問団に対し、国賓級の扱いで遇していただいたことに深い感銘を受け、強烈な印象でした。忠烈祠を後にした一行は、次に中華民国外交部（外務省）を表敬訪問しました。広いレセプションルームに通されると、亜東関係協会の羅坤燦理事長が待っておられました。とても気さくな方で、団員一人ひとりと名刺交換をしてくされ、和やかな雰囲気です。会話は始まり、羅理事長が日本と台湾の歴史的な関係や民間交流の現状、今後の展望等について挨拶されたのについて、小菅団長が国交断絶によって政府間の正式な関係はないけれども民間交流は続いており、私たち訪問団は日本を代表して毎年訪れているという気概で臨んでいますと心強い答礼を述べました。団員からの質問にも丁寧に答えられ、心から日本を大切に思っておられることがひしひしと伝わってきました。

約一時間の会話を終えた一行は、外交部の玄関前で羅理事長を交えて記念写真を撮影した後、すぐ近くにある林森公園へと向かいました。公園に着くと現地の新聞社の方が待っておられ、小菅団長が二十分程度取材を受けました。インタビューを終えると、すっかり夕闇に包まれた公園内に建つ、明石元二郎台湾総督と乃木希典大将の御母堂の鳥居の前で二礼二拍一礼の作法でお参りし、追悼の誠を捧げました。

五十名を超える憂国の

台湾文化人が参集

林森公園を出発して向かった先は、黄文雄先生主催の歓迎夕食会場「紫都」です。会場に着くと、毎年六月の台湾特別講演会でお馴染みの黄先生が笑顔で出迎えて下さり、講演会以来の

再会を喜び合いました。程なく五十名を超える憂国の至情に溢れる台湾文化人の方々が参集され、各テーブルで名刺交換をしながら開会を待ちました。黄先生、李雪峰台湾高座会会長、小菅団長の挨拶の後開宴すると、会社経営者、大学教授、お医者さん、著述家、マスコミ関係の方々等、多士済々の集まりとあって、あちらこちらで話が盛り上がりしました。ガイドの簡さんが言われるには、これだけの台湾文化人が一堂に会するのは滅多にないそうで、黄先生の人脈の広さに驚くと共に、こういう場を設けて下さったのは、黄先生が訪問団を高く評価しておられる証だろうと、少し誇らしく思いました。二時間程楽しく歓談して歓迎会はお開きとなり、この日の宿泊先である三徳大飯店で深い眠りに就きました。

■ 十一月二十三日（土）

丁教授の詳しい説明で
地下ダムの謎が解ける

ホテルで早目の朝食を摂った一行は、台北駅から新幹線で高雄の左營駅まで行き、その後専用バスで屏東へと向かいました。二日目の第一の訪問先は、大正十二年に鳥居信平技師が完成させた、屏東縣丹林村にある二峰圳地下ダムです。伏流水を利用した地下ダムとはどんなものか想像できませんでしたが、現地で屏東科技大学の丁澈士教授が自作の資料に基づいて詳しく説明して下さい、特別に地下の様子を見せていただいたので納得できました。教授の説明なしに現地を見ただけでは、恐らく何も解らなかっただろうと、感謝しています。

更に教授に灌漑水路等を案内していただいた後、喜樂發森林公園に立ち寄りました。そこで鳥居信平の胸像や旧資料館を見学し、九十年前の技師と地元パイワン族の交流に、しばし思いを馳せました。

田中綱常將軍の御子孫と 運命的な邂逅

次に向かったのは黄事務局長の嫁ぎ先のお母さん、石羅界さんが建立された東龍宮です。実は私たちの訪問日に合わせて、お宮の改築のための地鎮祭が設定されていたのです。東龍宮に着くと、舞台が設けられていて、村中の方々が私たちを出迎えて下さいました。早速、御祭神である田中綱常將軍の前で、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花の慰霊式を斎行し、御祭神の一人である乃木將軍に、団員の石川秀久さんが献詠されて取りおさめました。そして奇遇なことに、田中將軍の孫の姪にあたる田中祥子様の消息が判明して、ご子息と一緒に東京から来宮されていたのです。田中將軍の御子孫と運命的な邂逅も果たし、お告げと史実が繋がる奇跡に遭遇することができ、言葉にいけない不思議なものを感じました。

その後地鎮祭の祭事が始まり、地元の少年たちによる獅子舞が奉納され、田中様と小菅団長の祝辞の後、鍬入れの儀式が行われました。最後に主宰者に促されて訪問団員も工事の平穩を祈念して鍬入れをしました。

念願の保安堂の新廟が完成

爆竹の大きな音響に見送られて東龍宮を後にした一行は、高雄に戻って保安堂を訪れました。建立中だった新廟が完成し、電光掲示板も設置されて、「歓迎 日華(台)親善友好慰霊訪問団」の文字が輝いていました。地元の皆さんが見守る中、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花、団長挨拶に続いて、新廟建立の記念の楯が団長、常任顧問、副団長に贈られました。新廟の中でいつものぜんざいや茶菓をいただいて談笑した後、十二月の落慶式への出席と来年の再会を楽しみに、お暇乞いをしました。

夕食は黄明山、葉美麗台湾支部長ご夫妻主催の歓迎夕食会でした。会場に着くと、支部長ご夫妻をはじめ、ご家族やご親族、そして支部長の会社の方たちが暖かく出迎えて下さいました。黄事務局長の通訳で、支部長、団長の挨拶が終わると開宴となり、顔馴染みの

方も多く、旧交を温めました。各テーブルが盛り上がりつつある中を、支部長ご夫妻と黄事務局長の日本の両親ともいえる団長夫妻が事務局長と揃って挨拶に回られ、日本風の「おもてなし」に感じ入りました。恒例の歌も続いて別れ難い思いでしたが、来年の再会を約してお開きとなり、一行は宿泊先の華園大飯店で旅の疲れを癒しました。

■十一月二十四日(日)

三日目の最初の訪問地は、第十二次に続いて二回目となる台南の海尾朝皇宮です。毎年訪問している飛虎將軍廟の本宮にあたる廟で、九時過ぎという早い時間にもかかわらず、管理委員会や近所の方々が待って下さっていました。早速、廟の次第に従ってお参りし、日本から持参した軍艦旗を奉納しました。そして、奇美博物館訪問の折にはいつも案内して下さいる台南市在住の龍素娥さんが会いに来られて、二年振りの再会を喜び合いました。

地元の小学校の校長先生が

飛虎將軍廟の普及に尽力

付近の市場を散策した後、すぐ近くにある飛虎將軍廟を訪れました。ここでも廟の次第に従って、杉浦兵曹長以下三柱の御祭神の前で慰霊式を斎行しました。そして海尾朝皇宮と飛虎將軍廟で、地元の安慶國民小學の黄俊傑校長先生とお会いしました。先生は、飛虎將軍の物語の劇を児童に指導したり、児童用の漫画を副教材として作成したりと、飛虎將軍廟の普及に尽力されており、有難いことだと感謝しております。

飛虎將軍廟を発った一行は烏山頭ダムに向かいました。ダムの湖畔にある八田與一・外代樹ご夫妻の墓前に到着すると、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷の後、永田常任顧問が献花をされ、全員がお線香をあげてご冥福をお祈りしました。昼食の後、ダム工事等で亡くなられた日本人四十一名と台湾人九十二名の名前が死亡順に刻まれている殉工碑を、高台にあるため有志の方のみ訪れました。碑前で黙祷を捧げ、吉武勲副団長が献花してご冥福を祈りました。全員揃うと、八田與一記念館

を訪れ、八田技師の偉業をDVDで鑑賞した後、八田與一記念公園に立ち寄りました。公園内には幼子を抱いた外代樹夫人の像も新設されており、当時の八田與一技師の住家や工事関係者の住宅を再現した公園内を散策しながら往時を偲びました。

烏山頭ダムを後にした一行は、台中市を目指してバスを走らせました。台湾台日海交會主催の歓迎夕食会の会場前で、この日福岡空港を発ったB日程の四名と合流し、二列縦隊で会場内へと進みました。会場では既に多くの会員の皆さんが待っておられ、拍手で迎えて下さいました。懐かしい顔の方も多く、あちらこちらで握手やお土産のやりとり、名刺交換等がしばしば続きました。やがて主宰者の簡朝陽会長の挨拶で開会し、小菅団長の挨拶の後、原田泰宏副団長の「鶴亀」の仕舞いが続いて開宴となりました。旧知の方のテーブルを回って酒を酌み交わしたりして話が弾み、カラオケを歌ったりと大いに盛り上がりました。宴たけなわで名残惜しい限りでしたが、翌日の宝覺寺での再会を約して、宿泊先の通豪大飯店に帰りました。

■十一月二十五日(日)

この日は慰霊訪問の最大の目的である「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列するため宝覺寺を訪れました。先ず境内の一隅にある日本人遺骨安置所(日本人墓地)前に整列し、一万四千余柱を慰霊するために慰霊式を斎行しました。お墓の周囲を簡単に清掃し、お酒と果物をお供えた後、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花に続いて二人ずつお線香を上げて、ご冥福をお祈りしました。私たちの慰霊式を遠巻きに眺めておられた日本人観光客に焼香を勧めると、皆さん快く応じて下さり、五十名近い方が線香を上げられ、御霊も草葉の陰で喜ばれたことと思います。



台湾のテレビ局が慰霊祭の 模様を取材

その後「霊安故郷」の碑の前に移動し、慰霊祭に臨みました。今回も私たち訪問団が最多の団体で、遺族の方々の参れもめつり減つてしまいました。十年後にはどうなっているかを想像すると、もっと若い世代の方が積極的にかかわって継承していかなければとの思いを今更ながら強くしました。ただ、台湾の放送局二社の記者が慰霊祭を取材していましたので、それが台湾全土に放映されれば関心も高まり、状況は好転するのではと期待しています。

主宰者を代表して台湾台日海交會の簡會長が挨拶をされた後、ご遺族代表、小菅団長の挨拶が続き、最後に団長の祭文奏上となりました。今年の祭文は、七十年前の大東亜會議で採択された共同宣言を冒頭に引き、この理念の下にアジアの解放のために戦い散華された三万三千余柱の英霊を顕彰する格調の高い内容で、多くの参列者に感銘を与えました。

慰霊祭が終わると、台湾の皆さんを交えて記念写真を撮り、境内を散策した後、歓迎昼食会までの一時間、多くの市民で賑わう台中公園をそぞろ歩きました。昼食会場に着くと、病氣療養中の中日海交協會の胡順來會長に代わって、何月桂副會長が笑顔で出迎えて下さいました。一時開催を心配しましたが、皆さん急なことで大変だっただろうと推察できますが、例年と変わらぬ接待をいただいたことに感謝しております。歓迎会の途中で胡會長の奥様が脚が悪いにもかかわらず、顔を出され、一言の弁解もなしにただ「すみません」と謝れたのを見て、昔の日本人女性の氣質を垣間見た思いでした。林政徳さんのアコーディオンも加わり大いに盛り上がりを見せましたが、名残りを惜しみつつ、次の訪問地である濟化宮を目指して出発しました。

山奥の濟化宮に エレベーターが設置

新竹縣の山の中にある濟化宮に着いたのは十六時頃で、今年も明るい時に訪問できてホッしました。バスを降りると、濟化宮の方が「エレベーターで

どうぞ」と声を掛けられました。何と今年は脚の悪い方でも参拜できるようにと、エレベーターが設置されていたのです。早速、エレベーターに乗って昇ると本当に楽でした。謝鏡清董事長の案内で本殿まで行き参拜しましたが、今年は永田常任顧問ご夫妻が二人で「九段の櫻」を献詠され、息の合った吟詠がご英霊の何よりの供養になったことと思いました。その後、靖國神社から分祀された四万余柱の霊璽を拝見させていただき、社務所前でいつものお餅とお茶を美味しくいただきました。宮前の小さな土産物屋に立ち寄ってちょっとした買い物をし、新幹線の新竹駅へと向かいました。台北市内の渋滞を避けるために、昨年から新幹線を利用することにしましたが、正解でした。十九時丁度台北駅に到着し、専用バスに乗り換えて時間通りに台日文化經濟協會主催の歓迎夕食会会場に着きました。

木村副団長の

「天皇陛下万歳」で締め

会場の逸郷園には黃天麟會長の他数名の役員の方が待っておられ、一年振りの再会を喜び合いました。会食は和やかな雰囲気で行われ、今年はカラオケも加わり、小菅団長も台湾語と北京語で台湾の歌を二曲披露して喝采を浴びました。蔡永興氏が団員一人ひとりに自著の歌集を贈呈されるなど、いつもの細かい配慮に感心しました。最後は木村秀人副団長の万歳三唱で締めようということになり、「天皇陛下万歳、台湾國万歳、訪問団万歳」で見事に締められました。

会場を後にした一行は、宿泊先の慶泰大飯店にチェックインした後、足裏マッサージや夜市見学に希望者は繰り出しました。夜市見学組は有名な士林夜市に行きましたが、再開発の関係で場所が一部移転していましたが、熱気は全然変わりなく、今年も台湾のパワーをいただいて帰りました。

■十一月二十六日(月)

最終日は先ず台北市内の土産物店に立ち寄り、家族や職場の人達へのお土産を買い求めました。その後、烏来ま

で足を伸ばし、高砂義勇隊戦没英霊記念碑の前で慰霊式を斎行しました。鐘の音の後、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花に続いて、小菅団長の挨拶、周萬吉理事長代理の挨拶、そしてたまたま民族学研究所の黃智慧様が来られていましたので、一言お話をいただきました。

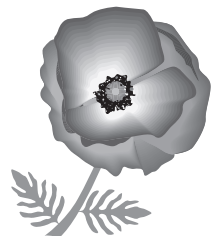
タイヤル族の踊りを初体験

慰霊式を終えた一行は、酋長文化村の酋長の家でタイヤル族の若い男女の踊りを見学しました。タイヤル族に古くから伝わる伝統的な踊りだそうで、何度か烏来を訪れていましたが、初めての経験でした。最後は軽快なリズムに合わせて踊り子と団員が輪になって一緒に踊り、楽しいひと時を過ごしました。昼食も酋長の家でいただきましたが、鹿の肉を使った珍しいタイヤル族の料理など、これも初体験でした。食事の後には売店で土産物を買ったり、瀑布(滝)の前で記念写真を撮ったりして、最後の訪問地を満喫しました。

ここで東京組の永石名誉顧問と松下さんはタクシーで松山空港へ、残りの一行は専用バスで桃園空港へと向かいました。桃園空港に着くと搭乗手続きを済ませ、五日間お世話になったガイドの簡さんと黃事務局長に厚くお礼を述べ、来年の再会を約束して別れを告げました。

一行を乗せたチャイナエアライン110便は一七時三十五分桃園空港を離陸し、日本時間二十時四十分は無事福岡空港に着陸しました。入国手続を済ませた一行は、空港ロビーで簡単な解散式を行い、全員の無事の帰国と台湾の皆様方の心温まるおもてなしに感謝し、沢山のお土産と思い出を抱え、一月の帰朝報告会での再会を約して帰路につきました。

(文責 原田和典)





第15次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 紀行文集(抄)

掲載は名誉顧問・常任顧問・副団長・班長・副班長・一般団員の順とした。

「台湾は何回訪問しても胸に刻まれ、
各地の思い出と名残も盡きない
感動の訪問団」

ながいし たつろう
名誉顧問 永石 辰郎氏

私は本年の第十五次慰霊訪問団への参加は、四回目となりました。訪問地は毎年同じ霊地等であったり、初めての訪問地であったりしましたが、今回の訪問地で特に多少の違った、また新たな感動を覚えた事項について、日程的には順不同となりますが率直な感懐を述べてみたいと思います。

第一は忠烈祠の儀仗隊の儀礼行動をみて私の旧軍時代の経験からその行動に軍隊の中核的な志気という観点から感じた率直な実感を次の三点にまとめてみました。

一、台湾軍はきびしい軍紀のもとに訓練され志気旺盛な軍隊である。

二、軍事訓練もその練度の質の高さや、それによって養成された精神、即ち軍人精神が横溢している。

三、国家、国民の為には自己の生命を賭していくという忠誠を誓う軍人本来、軍人精神と逞しい民族精神が潜在している。

第二は松俵義博氏の台湾に対する一途な親善の精神に基づく行為であります。新装なった保安堂の神殿にマッチした見事な龍柱二本のご寄贈、龍神は保安堂の守護神として永久に存続されていくでしょう。また、配付された「聖山八田與一銅像の物語」によって

初めて知りましたが、二〇一三年二月に八田與一氏の偉大な功績を讃え、そのいしれぬ感動の象徴として見事な銅像を寄贈されたことは、今まで個人の寄贈としてはじめての偉業でした。第三は日本人土木技師、鳥居信平氏による地下ダム建設でした。この見学は私は訪台以来はじめての現地訪問でした。二峰圳集水廊道工事により洪水を防止し、渇水時の給水対策としてこの工事の完成により、萬隆農場の開拓は勿論、周辺住民に対する大きな貢献で(伏流水に着目した工事)、一九二三年に二年間で完成し、八田與一に継ぐ日本のすぐれた土木技術による現地への大きな貢献として永久に語り継がれていくことでしょう。

第四は屏東の東龍宮です。東龍宮の主祭神は田中綱常氏ですが、氏のご経歴ですが陸軍士官学校の前身は明治元年京都に在住し、兵学校と稱していました。明治二年には大阪に移転し、「兵学寮」(陸海軍士官養成所)と稱しました。明治四年二月に兵学寮は東京に設置されています。田中綱常氏の曾孫の田中祥子女史の話によると田中綱常氏は当初、陸軍で明治五年には「陸軍中尉」と明言されたことから推量しますと明治二年に大阪の兵学寮に入校された方と推量します。

第五は八田與一氏邸の公園の一角に八田與一夫人の一人の子女を抱いた銅像にははじめて接しましたが、八田與一氏にとっても意義深く、現地の同女史への思いやりの象徴でもあらうと

痛感しながらいろいろの想いにふけたひと時でもありました。

第六は済化宮に今回エレベーターが設置され老人等に対するご配慮に謝意を申し上げます。

結語として、今回は訪問先々での由来など口頭での説明にとどまらず、史実に基づく正確な資料を用意、配付して頂いたことは何より有難い当局のご配慮であり、訪台の印象も末永く残り、小菅団長並びに事務当局のご苦勞に対し、深甚の謝意を表します。また、毎年のことながら訪問先ではいづれも懇親会の会食も開催して頂きましたことは、日台の友好の絆の証左であり感謝に堪えません。

最後となりましたが、小生の足の不自由から格別のご配慮を頂いた中村哲氏、松下美佳女史には大変ご支援を頂き、同室の石原祐教氏には滞在中大変お世話を頂き種々ご迷惑もかけたことと思い、心から在台中の御心遣いに対し感謝の意を表し筆をおきます。

台湾によせる強い思い

まつだわら よしひろ
常任顧問 松俵 義博氏
まつだわら しげこ
原班班 松俵 茂子氏

第十五次日華(台)親善友好慰霊訪問団に参加させて頂いて、多くの方々と同席し、何回参加しても胸が熱くなり涙が止まらないのは何故でしょう。

台湾と日本は歴史的にも深い繋がりが

●ご協力ありがとうございます。

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長 戎 義 俊

☎(092)734-2810

〒810-0024 福岡市中央区桜坂3-12-42

教育正常化教職員ネットワーク

福岡教育連盟

執行委員長 矢ヶ部 大輔

☎(092)631-2901

〒812-0045

福岡市博多区東公園7-7

福岡県庁地下1階

があり、強い絆で結ばれており互いに親近感を持っています。第十一次より第十五次まで毎年、慰霊訪問の旅に参加していますが、台湾でお会いする方々の日本に対する気持ちがいささかも変わらないことには頭が下がります。小菅団長に会い、慰霊訪問の旅に参加できて本当によかったと感謝しています。

十一月二十二日の中華民国外交部への表敬訪問では、気持ちよく訪問団を迎え入れて下さり、団員一人ひとりと名刺交換までして戴き感動しました。

十一月二十三日の東龍宮では、訪問団の参拝に合わせて地鎮祭、起工式の式典を開催して下さい、大勢の方々の集まりで、太鼓や獅子舞や音楽と賑やかなお祭りとなり、慰霊訪問団の皆様も参加させて戴き、思い出に残る旅となりました。高雄の保安堂もようやく新しい廟が竣工し、奉納した二本の龍の柱が一段と目につき、胸がいっぱいになりました。

十一月二十四日には烏山頭ダムでの慰霊式でした。去年は行程の関係から烏山頭ダムには行けなかったが、二日目に見学した烏居信平の二峰圳(地下ダム)と烏山頭ダムの台湾を代表する二つのダムに行き、台湾の灌溉事業に大きな役割を果たしたふたりの技師の足跡を見学でき、八田與一記念館にも行けて感動でした。烏山頭も訪れる度に整備が進み、台湾の方々の八田與一技師に対する思いが伝わってきます。

十一月二十五日は台中市の宝覺寺での慰霊祭でした。宝覺寺の日本人墓地での慰霊式には今年も日本人観光客の方が大勢お参りして下さいました。団員の皆様の声掛けにより年々、一般観光客の方々のお参りも増えており、少しでも多くの方にこの日本人墓地の存

在を知って戴けたらと思います。続いて行われた「霊安故郷」碑前での慰霊祭で奏上された小菅団長の祭文には胸が熱くなり、涙が止まりませんでした。済化宮(台湾の靖國神社)では、今回エレベーターが設置されており、足の悪い方にもお参りがし易いようになっていました。ちょうど訪台前の十一月十六日に東京・九段の靖國神社にお参りに行っていたこともあり、またひとつ感動的でした。

十一月二十六日の最終日は烏來の高砂義勇隊戦没英霊記念碑での慰霊式でした。残念ながら、足が悪く慰霊碑前までは登れず下で待っていました。慰霊式後には酋長文化村で、高砂族(タイヤル族)の民族舞踊などを見学し、最後は団員全員がいままでにない笑顔で踊りの輪に加わり、とても楽しいひと時をすごすことが出来、よい思い出になりました。また、初めての烏來での食事も地元で採れた野菜、海老や蟹、魚といった珍しいものばかりで大変美味しく、台湾に来て幸せでした。

いつもながら、事務局のスタッフの皆さんも準備段階から大変だろうと思います。大勢の団員の世話をし、スケジュールを予定通りにこなし、慰霊訪問の旅がスムーズに進行するように細かなところまでの気遣いに、感謝の気持ちでいっぱいです。私たちもこの台湾慰霊訪問の旅が、いつまでも長く続きますよう、少しでもお役に立てればと思います。

台湾の皆様、団員の皆様、事務局の皆様、本当にありがとうございました。

台湾先住民たちの 民族の誇り

ながた まさみ
常任顧問 永田 昌巳 氏
ながた
原田班 永田タマミ 氏

第十五次日華(台)親善友好慰霊訪問団に参加し大東亜戦争において尊い命を散華された台湾同胞三万三千余柱の英霊に日本代表の心をもって尊崇の誠を捧げた。また台湾各地に祀られているご英霊にも顕彰を続け、これまでお世話いただいた人たちとの友好を深めた。

今度で五回目の訪問になるが毎回新たな出会いと発見があり、充実した旅行であった。また今回は事務局より訪問先の歴史など記した学習資料を作っていただき、良く理解でき有難かった。

初めて訪問した忠烈祠では衛兵の交代式が行われていて、多くの観光客で賑わっていたが、我々は本殿の中華民國革命烈士聖位の前に案内され、抗日戦争を戦って戦死した国民党戦士の霊に献花と敬虔なる黙祷を捧げた。祖国のために尊い命を犠牲にした敵国戦士にも素直に義勇を讃えた。それができるのが今の日本と台湾の関係だろう。案内してくれた国民革命忠烈祠管理組合長の楊光耀氏の丁寧な説明は好感が持てたし、孫文の革命運動に参加し戦死した山田良政が日本人としてただ一人祀られているのには驚きであった。

今回は飛虎將軍廟を訪ねる前に海尾朝皇宮にお参りした。海尾の守り神「保全大帝」を祀るこの廟は飛虎將軍廟の本山で大帝のお告げで飛虎將軍廟が造られたという歴史を知った。この

●ご協力ありがとうございます。

ひとをつくり まちをつくり くにつくる

九州不動産専門学院グループ

代表 小菅 亥三郎

☎(092)714-4131

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

美祿市総合観光部

☎(0837)52-1532

〒059-2292

山口県美祿市大嶺町東分326-1

飛虎將軍廟で地元安慶国小学校の黄俊傑校長先生にお会いすることができた。去年は子供たちが飛虎將軍杉浦茂峰少尉が敵機と空中戦の末、死をもって集落を救った劇を演じている写真を見て感激したが、先生の話によると、この学校では飛虎將軍を讃える歌や教科書を作り、政府にも認めさせ、子供たちに公共や愛国について教育を行って日台友好に寄与しているというから愕きであり関心させられた。

屏東枋寮郷にある東龍宮にも昨年に続き参拝した。そこで思わぬ人に出会った。東龍宮は田中綱常將軍ほか日本人のみを祀る廟で、石羅界さんが祭主を務めており、その子息である李光立さんが中心となって田中綱常將軍のご遺族を調査中だが、その子孫も皆故人となり消息は追えていない。お告げと史実が繋がるまであと一歩だと学習資料には記してあるが、何と田中將軍のお孫さんにあたる田中祥子さんが現れたのだ。この東龍宮に祖父が祀られていることを知り、初めて東京からお参りしたということであった。これも英霊のお告げだろう。この日は地鎮祭と合わせ太鼓や龍舞いなど老若男女ともども村を挙げての祭りが盛大に行われ、日台の友好の絆が深まった。

台湾を知ろうと思えば「水を知れ」、台湾には「飲水思源」という言葉があるそうだ。水については嘉南大圳の父、八田與一が一番に挙げられるが今回初めて烏居信平が造った二峰圳(地下ダム)の現場を見ることが出来た。源を大武山に発する林辺溪(川)の川底は砂礫がゴロゴロで水はほとんど枯れていたが、信平はその川底の下を流れる伏流水に目を付け堰き止め、進水塔に集水した水を勾配を利用し、下位の台湾製糖公司まで水路をつくり引き込む大

灌漑施設を造ったのだ。建造九十年を経過した今なお清流が絶えることなく流れ、村人の生活用水ともなっているのには驚きである。

この二峰圳を造るのには日本人技師、烏居信平の偉大な土木技術と地元先住民パイワン族の協力がなければとうてい完成は成されなかったであろう。この地下ダムは彼らの大切な獵場や漁場に配慮して自然を壊すことなく設計されている。また信平は調査の段階から先住民との交流をはかり誇り高さパイワン族が本来持っている優しさや親切さを充分知り尽くし信頼を得ていたし、頭目と義兄弟の契りをも結んだといわれている。屏東県来義郷はパイワン族の居住地でバスから見る道路沿いの石堤には色彩豊かに狩猟や舞踊の様子が描かれ、また喜樂發發森林公園には立派な民族衣装をまとった部族の人々の絵がダイナミックに描かれている。

この日本人と台湾先住民パイワン族の豊かな信頼関係を水をさすようにNHKは「NHKスペシャル」でパイワン族の生活状況を人間動物園の動物扱いにしたとして、その人権無視の放送姿勢が問われ、原告のパイワン族に訴えられた。

私たち訪問団が帰朝したのは十一月二十六日であったが、二日後の十一月二十八日、東京高裁は待っていたかのようにNHKはパイワン族の名誉を傷つけたと認定し、逆転勝訴を言い渡した。

この番組は、日本の統治を振り返る内容で、日本の統治が台湾の人々に深い傷を残したというものが、裁判では逆にNHKこそ台湾の人々に配慮と真実性を欠いた乏しい報道によって深い傷を残したと指摘した。

パイワン族をはじめ、台湾の原住民たちは民族の誇りをもっている。日本人でありながら日本民族の誇りすらもないNHKをはじめとする日本の反日メディアはどう反省するのだろうか。

日本と台湾を結びつける 「天皇陛下万歳」

副団長 木村 秀人氏
きむら ひでと

今次慰霊訪問団の最後の万歳三唱は、台北の夜に「天皇陛下万歳」で締めくくりました。今後、台湾にても私たちの万歳三唱は「天皇陛下万歳」です。

その事の次第と「天皇陛下万歳」の意義をここに記しておきたいと思います。十一月二十五日、宝覺寺。慰霊祭後、林政徳氏のお話の中に「天皇陛下の台湾御訪問の可能性はありますか」との一言がありました。それから場所を移し、台湾中日海交協会様による歓迎の昼食会があり、盛会の後、万歳三唱の音頭を取りました。しかし、宝覺寺での林政徳氏のお話のこともあり、自身何か足りない気がして、散会后バスに乗るところを引き返し、林政徳氏にお聞きしました。

「ただいまの万歳三唱は天皇陛下万歳の方がよかったですね」答えは、「勿論そうです」

この時、自分の中で日本と台湾がピタリと符号を合わせる感がありました。そこで、

「来年は、是非、天皇陛下万歳でやりましょう。約束ですよ」

林政徳氏にはここにして頷かれました。バスの中で団長に報告しますと、団長もここにきて、

「是非そうしましょう」

その夜です。台北のレストランで、台日

●ご協力ありがとうございます。

ふれあい 学びあい 助けあい
九州不動産専門学院グループ同窓会
九 栄 会

会長 角 洋一郎

☎(092)714-4341

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

快適な住空間の創造
ハウジング アーキテクチャー システム

(株) H A S

代表取締役 田中 道夫

☎(092)663-5510

〒813-0002

福岡市東区下原4-19-17

エトワール21-605

文化経済協会様による歓迎の夕食会がありました。訪問団員には全員任務が割り当てられていて、私は既に挨拶一回、万歳二回していましたので、後は来年と思い食事に集中していました。ふと横を向くと、原田部長がそばに。

「万歳三唱をお願いします」

昼間のこともあり、自然に、「天皇陛下万歳でいいですか」
原田部長「いいと思います」

原田部長の「いいと思います」は「やれ」という意味です。経済協会様もそれでいいということで、

「天皇陛下の台湾御訪問を祈念しまして、天皇陛下万歳、台湾国万歳、訪問団万歳」となりました。

散会して、会場から隣の一般席に出ますと、台湾の若者でしょうか、笑顔で私たちの方へお辞儀をしてくれました。

以上が、台湾で初めて訪問団が「天皇陛下万歳」をしました経緯です。

「天皇陛下万歳」の意義について

一、明治二十八年、下関条約により台湾が日本領となった時、「かの地の民の暮らしや如何」と思われたのは、誰か。大日本帝国の統治者として、明治天皇以外にあるまい。このお気持ちのもとに、台湾の近代化が始まる。というよりも、台湾近代化に尽力した日本人の気持ちを支えたのは、この大御心あればこそであつたろう。何故なら、彼らは個人として台湾のために頑張ったのではない、日本人としてである。この日本人を日本人たらしめる源を尋ねれば、皇室に行きつく他ないではないか。

二、「天皇陛下万歳」で出征した台湾の若者たちの慰霊に来て、万歳に「天皇陛下万歳」がないのは、何か足りない、何かずれている、何かふれていない、どこかに隙間がある、という気がずっと

していた。宝覺寺の慰霊祭は、天皇陛下を待たずしては完結しない。硫黄島の怪奇現象が天皇后両陛下の巡幸の後、ピタリと止んだという。台湾出身で日本の大義に殉じたのであるから、なおのこと英霊は天皇陛下を待っているであろう。

三、「天皇陛下万歳」は日本人の魂の回帰の言葉である。陛下御自身の長寿の祈りでもあり、日本の歴史と文化と大地とを渾然一体とまとめ、日本の精神の力となることばでもある。だからこそ、私たちの心を浄化し、生きる力を産むことばである。

だから、私たちは万歳を唱えるのだ。しかし、だからこそまた、反日勢力は、かつて全国津々浦々にこだました「天皇陛下万歳」を言わせぬ空気を作つて、今やこの伝統は私たちの周りからは消えたのである。シナ中共が日本消滅を狙い、皇室破壊を目論む理由でもある。「天皇陛下万歳」は、だからこそここにまた、反日勢力と中共シナへの反撃として高らかに私たちは唱えるのである。

四、高砂族の古老いわく、「大和魂はこの台湾の山々の中に、私たちが守っています。いつでも取りに来てください」

五、日本が好きで、皇室が嫌いな台湾人はいない。しかも、大陸の圧力を受けながら、台湾人は日本のことを心配している。「早く日本人の魂を取り戻して、しっかりしてくれ」と。

以上、こうして見ますと、「天皇陛下万歳」は日本と台湾を守る言葉でもあります。天皇陛下の御訪問を台湾の人たちがどんな気持ちで待っているか。日本への思いは、その時、どんなふうにどんな形で表れるか。台湾松山空港を埋め尽くす日台の旗を想像するのは難しくありません。私たちは、その時、失われたものを見つけ、奪われたものを回復した

時のように、目の当たりに、日台が兄弟国であるのを、実感するでしょう。

台湾に学ぶ日本人の誇り

よしただ いさむ
副団長 吉武 勲氏

「台湾は世界一の親日国家である」と言われるようになったのはなぜか。先日、台北駐福岡経済文化辦事處の戎義俊處長とお話する機会があり、その理由をお聞きすることができた。その中でも、私が一番共感できたのは、我々の先人たちのご尽力があつてこそであるということだった。

歴史の授業や教科書で、台湾で活躍された日本人が取り上げられる機会はほとんどない。私も恥ずかしながらこの慰霊の旅への参加がきっかけとなり、そのような方々の存在を知ることができた。自分の勉強不足を恥じるとともに、教育現場において、伝えるべき重要な歴史的事実が教えられていないことに改めて問題意識を感じた。

子供たちが抱える問題の一つに、「自尊心の低下」がある。しかし、私自身も含め、現場で教えている教師も戦後の自虐史観のもと教育を受けており、自国に確固たる誇りを持っていないままに教育活動に取り組んでいる場合も決して少なくはない。

「我々の祖先たちは海外でひどいことをしてきた」という誤った認識を正し、自国の誇りを持つことが、自尊感情の育成につながると考えられる。

今回の慰霊の旅で、まさに教育現場で伝えたい日本人の功績について知ることができた。

一人目は、台湾で神と祀られた日本軍人の杉浦茂峰曹長である。二十歳という若さで、我が命と引き換えに冷静な

●ご協力ありがとうございます。

(株) 関 家 具

代表取締役社長 関 文彦

☎(0944)88-3515

〒831-0033 福岡県大川市幡保98-7

売買、賃料、相続、訴訟、担保、資産の評価



社団法人 日本不動産鑑定協会正会員

(株)国際不動産鑑定所

代表取締役 山口 勝彦
不動産鑑定士

☎(092)483-3350

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東1-12-5
博多大島ビル

判断を下し集落を救った勇氣と決断力は、ややもすれば利己主義に陥りがちな現在の若者の見本とも言える。

二人目は、烏山頭ダム建設の監督を務めた八田與一氏である。技術や智恵を惜しみなく提供し、作物の育たなかった嘉南平野に大規模なダムを造り、三年輪作給水法により全農民にその恩恵を与えるという功績は言うまでもないが、決して驕ることないその姿に感動を覚えた。日本人と台湾人を区別することなく死亡順に名前が記された殉工碑や、台座なく地面に腰を下ろした姿で設置された銅像から、彼の人となりが伺える。

最後は、台湾を親日国家へと導いていただいた日本人全員である。これまでいくつかの諸外国を訪問したが、これまで感じることでできなかった温かさを感じた。他国では必ずしも歓迎を受けるわけではなく、現地の若者に取り囲まれてからかわれたり、店員に露骨に嫌な顔をされたりと不快な思いをすることもあったが、台湾ではそのような思いを一切することはなかった。早朝の公園で気さくに日本語で話しかけてくださった方や、昼食会で「ありがとう」と目に涙を浮かべながら力強く握手してくださった方など、本当に温かい方々と出会うことができた。自分が日本人であることに誇りを持つことができた瞬間が多々あった。これもすべて我々の先人のおかげである。

今も台湾に残る武士道精神を、現代の日本人は果たして受け継いでいるのか。そんな我々を台湾の方々はどう見ているのか。「かつての日本人はよかった」と過去の話にならぬよう、教え子に先人たちの功績を伝え、日本人としての誇りに満ちた先人たちに恥じぬ生き方をしたい。

『日本の宝』があるうちに

はらだ やすひろ
副団長 原田 泰宏 氏

四回目の慰霊訪問団でしたが、今回は旅程後半のBコースの参加でした。今年会社を変わったこともありギリギリまで参加を保留しておりましたが、『いつ行くの？ 今でしょう!』の心の声に決断し、会社への影響がより少ないBコースに参加した次第です。(Bコースでも十分意義のあるものでした。)

なぜ今なのか。それは、私が【日本の宝】と思っている元日本人である日本語世代の方々が九十歳前後のご高齢で、来年は会えないおそれが高まるからです。私は慰霊訪問の旅でこれらの方々とお会いし、お話しすることも、重要な参加目的であります。

もう四回目になりますと、顔見知りになる方も増えてきました。一例を挙げますと、一回目、二回目にお会いした元従軍看護婦の四名の方と今回も再会できたこと、待っていただいたことは本当に嬉しかったです。その中のひとり、馮繡笑(日本名・有馬笑美子)さんは、当日転んで手を骨折したにもかかわらず、包帯を巻いた痛々しい姿で参加していました。しかし、そのことはおくびにも出さず、再会を喜ばれていたことは感激しました。

別れる間際まで、『日本よもっとしっかりせよ』と励まされます。その心底は今の日本人以上に日本の事を心配して下さっています。私はこれらの声に応えなければならない、では何ができるかと自問しています。

訪台し、日本語世代の方々と接し、いろいろな話を聞くと、本当の生の日本人の姿が少しづつイメージされます。そ

れは、戦前の日本人であり、本来の日本人に近い姿だと思っています。これらの姿に自分自身が少しでも近づけるよう精進し、後継者へ伝えたいと思っております。次回も慰霊を行い、先人のご苦勞に感謝と尊崇の念を捧げ、また台湾の方との交流を図るとともに、日本語世代の方々の期待に添えられる報告ができるようにがんばりたいと思っています。

余談ですが、台北にある日本語・日本文化そのものでケアするディケアセンター「玉蘭荘」があります。天国へ召される前に本人にとって心地よい日本語で心の安寧を整えていただくことを目的にされているところです。週二回開催されており、日本人が訪ねてこられてお話しされることを待っておられます。ご興味がある方は私までご連絡ください。

最後に、小菅団長はじめ事務局及び関係者の皆様に大変お世話になりました。また次回もよろしくお願いいたします。

軍歌は日本と台湾がひとつの国として過ごした頃の思い出

きりの たかのり
第三班班長 桐野 隆徳 氏

慰霊訪問団での訪台は今回が二度目です。慰霊訪問は継続することに意義があると思い、是非今回も参加したいと思っていました。しかしながら仕事の休みが確保でき、参加の申込みが出来るようになったのは、出発ひと月を切ってからでした。大変ご多忙な中、小菅団長、事務局の皆様、旅行社にご尽力いただき無事団員として訪台することができました。お陰様で今回も宝覺禪寺でお参りすることができ、また得難い

●ご協力ありがとうございます。

旅行代理店 (社) 日本旅行業協会会員

(株) 近畿日本ツーリスト九州 福岡支店

☎ (092) 272-4891

〒812-0024 福岡市博多区綱場町2-21 福岡MDビル8階

甲斐歯科クリニック

院長 甲斐 文一郎

☎ (092) 731-4188

〒810-0044

福岡市中央区六本松4-11-26

ビバーチェハシモビル1階

貴重な経験をすることができました。私一人では決してお目にかかる機会がない方々からお話を伺えたのは私の財産になりました。この場をお借りしまして深くお礼申し上げます。

今回も素晴らしい方々とお会いして、有意義かつ充実した時間を過ごすことができました。その中でも宝覺禪寺で私がかぶっていた海軍冬帽子を懐かしく感じられ、声を掛けていただいた張頼朝、台日海交會顧問とお話した数時間はとても印象深いものでした。時折、体調がすぐれない日もあると話されていましたが、高齢になられても背筋をびんと張ったお姿に沢山のご苦勞を乗り越えられたことが感じられるようでした。当時の仲間会にいられたこの日は、やはり懐かしい気持ちに溢れたのか、時折涙を浮かべながら優しい口調で、ご家族のことや領台時代の頃の話をお聞かせくださいました。普段の生活では日本語を使う機会がずいぶん減ったといわれたものの、お人柄なのか、私自身も近い親戚と話しているような心落ち着く、ゆったりとした気持ちになっていました。同世代の台湾人の友人もいますが、領台時代の台湾の方にお会いしますと初めての方でも懐かしい気持ちを抱いてしまうのは、古き日本人の心を多分に持ち合わせているからでしょう。ただ残念なことに昨年、宝覺禪寺でお会いした方の何名かにこの場ではお会いできず、やはり心配と寂しい気持ちは拭えませんでした。

もうおひと方、初日の黄文雄先生による歓迎夕食会と四日目の台日文化經濟協會様による歓迎夕食会でたまたま席が隣合わせになった黄天麟會長です。気さくなお人柄でインターネットを見て書き写された軍歌や懐かしい日本の歌を配られて夕食会を大いに

盛り上げてくれました。また私が軍歌を歌い慣れていない為、黄會長に何曲も一緒に声を合わせて歌っていただきました。台日海交會様による夕食会の時もそうなのですが、「久しぶりに軍歌を歌ったよ」と楽しそうな声が会場から聞こえてきて、こんなにも軍歌を台湾の方が懐かしがっていらっしゃるのかと昨年以上に実感しました。軍歌が日本と台湾がひとつの国としてすごした頃の思い出として大切にされていると聞いたことはあったのですが、今回はよく感じました。

さて、この慰靈訪問団での五日間は慰靈を通じて日本の過去、将来について改めて考えさせられます。鳥居信平の二峰圳や八田ダムなどインフラ施設はもとより、昨年訪れた六士先生の墓や鹽水小学校をはじめ教育での貢献など今日の日本では知ることが少ない台湾に残された、当時の日本人の情熱に触れることができ、半世紀以上もの前の日本人と台湾人が共に生きていた頃に引き込まれてしまいます。しかしながら台湾に現存する古き良き日本に懐かしさを感じる半面、また日本での戦前と戦後世代の断絶にも気づかれます。

日本では国を護ってきた人のことを思うことが少ないと台湾人に指摘されることがあります。国を愛し、国を護る、そして残念ながら散って行った英霊への敬意を表すことは大切なことですし、どの国でも行われています。まして今日の日本国の繁栄は八万人にもおよぶ台湾兵、さらには三万三千もの台湾軍人・軍属の方々の命を懸けた献身の延長にもあることは日本人として決して忘れてはならないことです。日本は文明国であり、文明国の一員として英霊に対し、慰靈の誠を捧げることは大切なこ

とだと思います。台湾への慰靈訪問は、多くの人に知って欲しいと思います。

今日ではインターネットで情報発信ができるようになったおかげで、若い世代を中心にマスコミの偏向報道に気付く人が増え、批判とバランスが取られるようになり、愛国心や歴史や伝統、文化を大切にする気持ちが芽生えているようです。また私も従来以上に日本と台湾のつながりを知る機会が増え、高砂族をはじめ誇り高き原台湾人らが日本兵として従軍し、厳しい戦闘の中を日本人と共にくぐった史実は日本人として忘れてはならないことだと強く思うようになりました。

今回の慰靈訪問で印象に残ったことのひとつに、台日文化經濟協會の方で行った「天皇陛下万歳!」の万歳三唱があります。参加者全員で行った万歳の息のぴったり具合に驚かされたのは、台湾人の日本に対する想いをまだまだよく理解していないからでしょうか。次回参加の折には下手なりに少しは軍歌を歌えるようになろうという気持ちになりました。

旅行ケースに日の丸を 納めての訪台

むらやま じゅん
第五班班長 村山 淳氏

昨年の第十四次台湾慰靈訪問の旅は、出発直前に急用で参加することが出来ませんでした。

今回の第十五次台湾慰靈訪問の旅への参加には、昨年にスタッフの皆さんやJTBの大西さんにご迷惑をお掛けしましたので、万難を排して参加したのですが、第十四次の紀行文集の中で「はるか台湾で輝く警察魂」の題で富安

●ご協力ありがとうございます。

(有)濱崎理想瓦製造所

代表取締役 山下 康仁

☎(092)201-4010

〒891-0101 鹿児島市五ヶ別府町3786-12

小島テナント事務所

小島 義則

☎(092)451-2995

〒812-0042
福岡市博多区豊2-4-65

宮に祀られた古川清次郎巡査のことを書かれていた藤末耕一郎氏から話を聞くことが出来ると楽しみにしておりましたが、昨年の私と同様、急用で出発直前で参加を取り止められました。

少し寂しい旅となりましたが、大東亜戦争で日本軍人、軍属として勇猛果敢に戦われて散華なされた台湾の方を慰霊するためですから、その分もお参りすることにしました。

第十二次訪問の旅で心残りがありませんでした。それは、台中市で宿泊した通豪大飯店には、中国や韓国などの国旗が掲げられておりましたが、日の丸だけがありませんでした。日本国旗が掲げられていない理由をフロントに尋ねましたが、その後、中国の理不尽な要求がホテルにあって日の丸を掲揚しなくなったことが分かりました。

今回の宿泊時に日の丸が掲げられていないときのことを考えて旅行ケースに日の丸を納めていましたが、その必要はありませんでした。これは、小菅団長や松俵常任顧問のご尽力によるものと感謝しております。

旅の目的である宝覺寺での慰霊祭には、慰霊祭の案内を見た多くの日本人観光客の方が日本人墓地に線香を手向けられました。その後、六十歳のご婦人が「年に一度の日本人墓地の慰霊祭に巡り合わせたことは、とても幸せでした」と感無量でお話されておりました。近くでは、訪問団の顧問が観光客に対して慰霊祭の意義などを熱く話されて、皆さんも感動されておりました。多くの日本人から供養されて、台湾で亡くなられた日本人の方々も喜んでおられると思います。

今回も台湾の皆様より心より歓迎され、歓待を受けたこと、また同じ志を持たれた団員の皆様と一緒に慰霊訪問

の旅が出来たことが心に残りました。

教育の正常化を目指して

いのうえ せいじ
第二班副班長 井上 誠二氏

今回、約十五年ぶりの訪台でしたが、前回は故宮博物館で人骨の笛を見学したぐらいしか記憶がなく、また高速道路は開通していたと思うのですが、地下鉄や新幹線はまだ存在していなかったと思います。日本の技術貢献の程が伺えました。

台湾国民は、子供の時から「日本国に助けられた。日本人はいい人だ」という教育を受けているので、親日家が多いのも納得できます。

あるホテルの朝食会場で、福島からの観光客ご夫妻と隣り合わせになったのですが、日本の約五十年にも及ぶ台湾統治、或いは東日本大震災における約三百億円からの個人寄付等もご存知なく、愕然としました。やはり、教育の必要性が問われます。

ガンバレ、ニッポン。「教育の正常化」を目指して……。

海の彼方のニッポンへ

いしかわ ひでひさ
第三班副班長 石川 秀久氏

昨年に続き慰霊訪問団に加えていただき、参加出来ました事を感謝申し上げます。それと共に、心をひとつにして交流を図りながら、慰霊の旅を無事に終えることが出来まして、団長はじめ事務局の方々、そして団員の皆様方にお礼も申し上げます。

私は、今回で二回目の参加ですから分からない事が多く、色んな事を発見する旅でもありました。

先ず、忠烈祠と中華民国外交部の訪問でした。昨年も外交部に行き「海ゆかば」を唱って内心驚きましたが、今年は軍艦旗を立てての忠烈祠への参拝訪問となりました。忠烈祠では、我々訪問団を特別に遇して出迎えて頂き、本殿の奥まで招き入れて頂き、参拝することが出来ました。本殿では、団長が諸外国からの要人賓客が行うと同様に献花礼拝が出来た事に台湾の懐の深さを感じました。このような事はやはり、十五年に亙る訪問団の地道で着実な実績の積み重ねの結果であろうと改めて思った次第です。

台湾を敵と思った事は今まで一度もありませんが、中華民国(蒋介石政権)とは確かに戦っていますので忠烈祠に日の丸、軍艦旗を立てて入って行くのはどうなのかなと思っていました。しかし、このことは私の杞憂であることが分かりました。軍人のみならず昔の人の感覚では、戦いは戦い、決着がつけば一視同仁の考えがあったのではと思います。

『♪昨日の敵は今日の友……我はたたえつかの防備……』(水師營の会見)

過日の日曜討論で木村副団長が発言されておりましたが「戦に負けただけ、大義は失っていない、先人たちの不名誉ではない」まさしくその通りだと思います。負けたことが全て悪のように今まで思っていましたし、悲しいかなそのように教えられ、偏った報道を真に受けておりました。最近の「恨みは千年……」と言う隣のおばさん大統領の呆れ果てた発言を聞くにつけ、腹が立つのを通り越して、このような大統領を持った国民の不幸に同情を禁じえません。(もともと、民度[国民]に応じた政治しか持てないとも言われますので、我々も他人事でなく、過去の民主党政権の轍を踏まないように、マスコミ報道も含

●ご協力ありがとうございます。

山口県日台交流協会

会長 重富 剛克

☎(0820)58-1111

〒742-1111 山口県熊毛郡平生町佐賀鳩ヶ峯2-77光輝病院内

(有) 悠 悠

代表取締役 徳山 世雄

☎(092)623-2667

〒812-0851
福岡市博多区青木1-11-87

めて真剣に考えなければと思います)

また、台湾の先輩方(元日本国民)も、たった一回の戦争に負けただけじゃないか。何を卑屈になるんだと海交会の皆さんとの交流でも言われますし、本なども多く目にいたします。

『日本は領台時代に善政を布いて良い事を多く行ってくれたが、唯一の失敗は戦争に負けた事だと…。』

この意味する所は、当方初めは良くわかりませんでした。団長が仰るように長い人で五十年間日本人として育てられ、ある日突然に日本人ではないと言われれば、その衝撃は想像を絶するものだと思います。今でもアイデンティティーを日本に置いている台湾の方々、本当に白色テロ等の圧政時代を良くぞ切り抜けて来られたと思います。我々はその間、連合国の占領政策に嵌り、大事なものを忘れて経済発展だけを追及していたように思います。恥ずかしい限りですが、個人的には台湾を訪問して改めて日本を見直すことが出来て(大東亜戦争、東京裁判、自虐史観、戦後教育、偏向報道、戦前の日本人の生き方等等)本当に良かったと感謝しております。

今年の訪問先も素晴らしい所ばかりで、中でも二峰圳(烏居信平)と烏山頭ダム(八田興一)は訪台前から期待しておりました。二峰圳は本を読んでも凡人には中々理解ができませんでした。百聞は一見に如かずの通り、全容までには分かりませんでした。概要は理解できた気になっております。現地でも遠くに見える山並みを見てあの辺りまで踏破して多分伏流水の水速を掴んで来たのだらなと感慨も新たにいたしました。資料から窺うと二年余に亘り反感を持つ原住民、毒蛇や風土病が猛威をふるっている中を良くぞ調査したものと

感心します。特にその設計思想は生態系も維持し、自然と折り合う地下ダムで、原住民の生活も壊さずに築きあげ、しかも川の水を濾過する考えは本当に凄いの一言に尽きます。(思うに、このような智慧が現代の諫早干拓事業等にもあればと思いました。が…。)

若い頃から「全て戦前の日本が悪かったのか？」と常々疑問に思っておりました。戦争ですから光と陰はつきものですが、中国、韓国が、或いは偏向したマスコミが言う事が正しいならば、我々の父母や祖父母の生きてきたことは否定され、報われなと思います。大叔父も台湾製糖で仕事をしていましたし、今回萬隆農場を訪れ、きっと大叔父も見たであろうマホガニーの大きな木を感慨深く見ました。叔父も台北の高校を卒業し、母の実家には台湾から留学生が下宿していた様で、今更ながら台湾とご縁があることを感じます。現在のわが国でもそうですが、そんなに醜い差別はないと思います。ただ、人の道を外れたり、周囲に迷惑をかけると確かに軽蔑はされると思いますが、それは自業自得だと思います。

私の祖父は阿蘇の山奥の出身で、当時ですから学歴こそありませんでしたが、内務省に入り、西日本各地で或いは朝鮮でトンネル等の土木工事に携わっていた様で、朝鮮語も使いこなし、朝鮮の人たちと分け隔てなく暮らし、仕事をしていたようです。

今回、烏山頭ダムの殉工碑の物故者氏名の順番を団長より伺った際に、日本と台湾と区別しないで亡くなった順で記されていた事に大いに感銘を受けました。この様な精神が烏山頭や台湾各地、或いは朝鮮、満州、樺太、南方諸島などで発揮されたものと思います。確かに後藤信平や八田興一をはじめ

め政府高官や民間会社の著名な方々も大変な事業を成し称賛するべきと思いますが、平凡な名もない日本人や台湾人のひとりひとりが真面目に努力したことをやはり忘れてはならないことだと思い、また誇りにして良い事だと感じました。

今回の海交会との懇親会で元教師の方とお話をすることが出来ました。その方が仰るには、東日本大震災の時に被災者が整然と列をなし、お互いを労わっている姿に感激して、さすが日本と涙してテレビを見たと言われて、私の方がびっくりしてしまいました。

国難に顕れ出づる

本性の美しきことに心動きぬ
(歌集 香る園 蔡永興さん作)

領台時代の教育の凄さだと感じました。しっかりとした気概を持った昔の日本人に会いたいならば台湾に行けば良いと思いました。父母や祖父母に久しぶりに逢ったような気になった人は私だけではないように考えます。

まさしく海の彼方のニッポンでした。

慰霊訪問はご縁をつくり、 深める場所

まつした みか
第四班副班長 松下 美佳氏

三回目の訪台、三年ぶりに訪問団に参加させていただいた。台湾の方々からいただいた山のような台湾土産を前に、帰国後一週間経ってもまだ心に余韻を残している。年に一度の私たち団員との再会を弾けんばかりの笑顔で迎え、会うや否や直ぐに胸に飛び込み抱きしめてくれる台湾の方々の底抜けの明るさは時を経ても全く変わっていない。初参加時には、台湾の方々の

●ご協力ありがとうございます。

総合印刷

大道印刷(株)

☎(092)582-0927

〒816-0873
春日市日の出町6-23

個人協力金A (敬称略)

角 洋一郎 (100,000円)	永濱 浩之 (20,000円)	中島 公明 (10,000円)
小菅亥三郎 (100,000円)	金澤 明夫 (10,000円)	中村 哲 (10,000円)
甲斐文一郎 (20,000円)	永田 昌巳 (10,000円)	江崎 君公 (10,000円)
原田 種雄 (20,000円)	山本 正 (10,000円)	蓑毛 彩 (10,000円)
村山 淳 (20,000円)	石原 祐教 (10,000円)	

そのエネルギーな自己表現にいささか驚きもしたが、いつの間にか私自身がすっかり溶け込んでおり、日頃一步を臆してしまう私には自分を解放できるかけがえのないひとときである。

領台の初めの頃には、戸惑いも衝突もあったが、最終的には日本人と台湾人が同じ国民として最大の信頼を築きあげ生きていた時代があったことを、無条件に納得させられてしまうのだ。台湾人は、私たち日本人とは性質も価値観も違う。しかし、訪台の度にその差異をむしろ楽しんで見ている自分を感じる。そして台湾の方々の魅力に惹きつけられていくのである。やはり、日本人と台湾人は真の仲間であり、心の家族である。自然にこういう思いに至れる国が他にあるだろうかとつくづく思う。中国や韓国のように、そしてまた日本人の中にも存在する反日勢力による目に余る日本への嫌がらせが横行する中、この同胞のような信頼感を抱ける日本と台湾との関係は国際社会の中ではおそらく稀であり、政治の面でも即刻協力し合うことを望まずにはいられない。

領台時代の日本人を手厚く祀る保安堂、飛虎將軍廟、東龍宮、そして当時の日本人の功績が偲ばれる烏山頭ダム、日本人兵士、台湾人兵士を祀る宝覺寺と濟化宮、日本兵に届けるための食料に一切手を付けずに、山中にて餓死していたという忠義と誇りの精神に満ちた高砂義勇隊の郷、烏來を今回もまた新鮮な心持で巡った。そして、今回は初めて二峰圳という地下ダムを訪ねた。このダムについて少し調べてみたのだが、これには烏山頭ダム建設にも共通した、日本人の一流の技術が駆使され、またその過程に築かれた台湾人との深い結びつきによる協力関係によりその完成に至ったのである。この地下ダムに対して、四年前に初めて雄大な烏山頭ダムを目にした時と同じ感動と誇りを感じた。

二峰圳は「台南の宝」とも呼ばれており、大正十二年日本人技師烏居信平により屏東県に造られ、現在も二十万人の飲料水と灌漑用水を賄っている。当時そこは早魃と洪水を繰り返す土地で、少ない水でも育つ粟、芋、落花生の栽培が主流であったが、この工事の結果、稲が植えられるように変化した。また早

魃期でも栽培が可能になった為、サトウキビの収穫量はぐんと上がり、その後新たに農場が開設され、洪水や早魃で土地を失った農民を入植させ、家屋、農地、耕作機械、水牛を貸し付け、農家の人口が増加したという。

また洪水と早魃を繰り返した土地は、大小の石が硬く積もった荒蕪地であり、掘削は人力では不可能で、機械を用いて掘り、その石を手作業で運ぶという過酷な工程を実に十四万人もの日本人と原住民が協力し合い完成させ、そこには一切のトラブルは無かったという。なぜならば、ダム工事着工にあたり、原住民の部落を烏居信平が自ら回り五十人の頭目と会い、ダム建設の計画を丁寧に説き綿密にすすめるという努力があったからだ。

この工事により実施された「輪作法」をさらに研究を深め、大規模に実施されたのが、あの八田與一が建設した東洋一の烏山頭ダムなのであるという。今回は烏山頭ダム建設で犠牲になった日台の人々を祀った殉工碑に手を合わせてきたが、烏居信平、八田與一が台湾の人々を心から愛し、台湾の生活を豊かにすべく、日台互いに手を取り合い困難な技術を駆使して、広大な事業を成功に導いたことに改めて胸が熱くなる。

帰途、松山空港へ向かう車中で、日本の大学に留学経験を持つガイドさんに色々な質問をした。その中で強く印象に残ったのが「台湾の教育は家庭が重要である」ということであった。このことは一見、日本とも同じであるように思えるが、それは違うのだ。台湾では、戒厳令の下に台湾の歴史を教育されずにいた時期があったが、その下でも台湾人は教科書によって教えられた歴史を偽りのものと認識しており、台湾と日本との関係についての歴史教育は各々の家庭でなされていた。したがって、現在台湾には親日家が多いのであるとのことだった。そして彼らが一番に留学先に選ぶ国は日本であり、それは日本を好きだからだという。

私は日本の良いところを聞いてみた。すると、それは時間の感覚がしっかりしているところだそう。しかし、その日本人の細やかなところは海外ではマイナス面にもなるという。それは、日本人は

外国においても、その土地の風習に馴染もうとせず要求が多いそうである。しかも語学力が弱いこともあって、相手にその意図が伝わっていないのに要求が通らないといって怒る傾向にあるとのこと。また台湾では基本的にチップは不要だが、ホテルマンの業務の範囲以上のことを要求する場合においてはチップが必要になることもあるとのことだ。しかし日本人はこれを知らずにチップを渡さないこともあるそうである。要するに勉強不足なのである。

思い返せば、松山空港まで話を聞かせて下さったガイドさん、ホテルの部屋を共にした黄さん、行く先々でお会いした台湾の方々、どの方とも私は台湾の方であることを忘れて会話に夢中になっていた。

そして今回は私にとり特別な出来事があった。それは私が所属し、活動している「而今の会」の同士である方の御家族と台湾でお会いすることができたことである。この同士は台湾に生まれ、現在は帰化し日本で暮らしているのだが、台湾に暮らす日本語世代の御両親が日本人が大好きで、日本人の友人を欲しがっているとのことだった。その希望が今回、訪問団との合流といった形で叶ったのである。

初めて訪問団に参加した時にできた縁は、有難いことに現在も繋がっており、それは益々、強固なものとなって、共に楽しむ事は勿論のこと、人生の先輩として私の生き方の助けとなり、刺激という大きな影響力となっていることに今更ながら驚かされる。この旅は台湾を巡り、台湾人と日本人の歴史を知り偲ぶだけではなく、そこで知り合った同じ志を持つ方々とのご縁をつくり、深める場所でもある。そして自分の人生を豊かにすべく活かしていきたいと、まだ残る台湾の余韻の中でつくづく感じている。

十五年の魂の交流を実感

ながはま ひろゆき
第五班副班長 永濱 浩之氏

私は、今次初めての参加団員です。
二泊三日のBグループ参加者です。

【旅程】

十一月二十四日(日)福岡空港出発、

台湾桃園空港着。時差一時間。新幹線で台中市へ、宝覺寺及び台中市内見学。台湾台日海交会様による歓迎の夕食会、通豪大飯店泊。

十一月二十五日(月)宝覺寺での日本人墓地慰霊式、原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭、台湾中日海交協会様による歓迎昼食会。バス移動で済化宮「台湾の靖國神社」へ。新幹線で台北へ、台日文化経済協会様による歓迎の夕食会、慶泰大飯店泊。

十一月二十六日(火)免税店。バス移動で烏來高砂義勇隊戦没英霊記念碑、酋長文化村にて昼食会。台湾桃園空港出発、福岡空港着、解散式。

まず最初に、小菅団長以下団員の皆様方、台湾現地の皆様方、関係各位に心より感謝申し上げます。「日本人」としては、まだ未熟な私ではありますが、このような尊き機会・時間を与えて下さったことに、只々、感謝する次第です。慰霊訪問団「十五年の魂の交流」の重みを実感いたしました。特に、台湾台日海交会様・台湾中日海交協会様・台日文化経済協会様主催による歓迎食事会での交流は、正に実証するものでした。簡単にはお会いできない要人の方々の列席の下、和やかな空気の中、昔懐かしい日本統治時代の思い出を語り、懐かしの歌(九段の母、愛国行進曲、日の丸行進曲、ラバウル航空隊、戦友、暁に祈る他)を歌い合い、楽しいひと時を過ごすことができました。また、台湾中日海交協会の胡順來会長が急病入院中につき歓迎会に出席できないとのこと、奥様が涙ながら申し訳ない思いを伝えられました。小菅団長の心温まるご返礼もありましたが、団員一同言葉なく、感謝の極みでありました。更に、真に文武両道の林政徳先生、お茶の先生でもある林啓三先生、元従軍看護婦である陳惠美さんは、最初の歓迎会で同席を賜わり、たくさんのお話をお聞きし勉強することができました。二日目の歓迎昼食会では、黄さんの心温まるおもてなしに乗ってしまった感があり反省しております。最後の台北での歓迎夕食会では、さすがに経済界の要人であり私には肩の荷が重いように感じました。しかし、頂戴しました「歌集 香る園 第二集」を拝読しましたが、蔡永興氏初

め六人の歌人の思いが、時空を超えて甦る詩でありました。その時々の世界を旅して思うこと、天の星・地の花、人の愛、四季の彩りを詠まれておられました。そして、日本のこと、特に鳩山政権の混乱、東日本大震災、天皇皇后両陛下の行幸啓、尖閣問題等、台湾については馬政権を心配された詩も多々ありました。日本のことを深く思い慕っておられる多くの台湾の人たちがいる現実、私たち日本人は真摯に向き合い、台湾統治時代の先賢の日本人に敬意を表さなければなりません。そして、日本人としての誇りを取り戻し、世界一の道義国家日本を再建しなければなりません。これは、我々後世に残された日本人の義務であると強く念じた次第です。

さて、ここからは、日本人墓地、宝覺寺慰霊祭、済化宮「台湾の靖國神社」参拝、高砂義勇隊戦没英霊記念碑慰霊式の模様と感想です。

大きな布袋様の微笑む宝覺禪寺の一画に日本人墓地及び原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の台湾住民で戦争の犠牲となった人々の霊を祀る「英魂観音亭」「靈安故郷」慰霊碑があります。日本人墓地墓前での「君が代」斉唱は、母国を離れ遠く台湾の地で散華された英霊に思いを込めたもので、墓地に沁み渡った感があり、只々感謝の思いを捧げました。目頭が熱くなり、感涙いたしました。更に、原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭では、「靈安故郷」慰霊碑前で両国国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花、地元主催者祭文奏上後、小菅団長の祭文奏上と進みます。特に、小菅団長の祭文奏上は、昭和十八年十一月六日に東京での大東亜会議で採択された共同宣言からの祭文でありましたが、私には「坂の上の雲」ドラマ中の東郷元帥・連合艦隊解散式での名文を思わせる、素晴らしい内容であり小菅団長の言魂が胸を熱くさせました。敬意と感謝の誠を捧げた後、「海ゆかば」を歌い慰霊祭は終了しました。その間、約一時間にわたり、胸が熱くなり涙が尽きませんでした。只々感謝の涙です。本当にありがとうございました。

その後、バスで約二時間の山奥に、台湾の靖國神社「済化宮」があります。本当に山奥です。本堂は観音廟で横に

七階建ての十地塔があり、台湾人御祭神約四万体の「靈璽」位牌が祀られています。凜とした空気が漂っている中、心温かな何かを感じました。「こんな山奥までよく来てくれた!」原台湾人英霊の念を感じた瞬間だと思いました。ただ、済化宮前方は南国の竹林で、連合国フィルム中の密林を火炎放射器で燃やす情景を思い浮かべ、またしても胸が熱くなり、感謝の思いでいっぱいになりました。言葉がありません。

最後に、台北の南東二十八キロの山間にある烏來(ウーライ)の高砂族の村の高台にある「高砂義勇隊戦没英霊記念碑」での慰霊式です。彼らは「志願しなければ男ではない」と、先祖伝来の蕃刀を掲げ、中には血書や血判の志願書を持参する者も少なくなかった。多くの神業を備え、軍規の厳正さは正規軍を凌ぐ厳しさと言いますから、正に大和魂を受け継ぐ最強の戦士です。後世に生きる日本人として、敬意を表し感謝の誠を捧げなければなりません。ありがとうございました。

改めて、「日本人」「原台湾人元日本兵軍人軍属英霊」のすこさを思い知らされた旅となりました。散華された英霊に、今もご健在の元日本兵軍人軍属の英雄に、恥じない生き方をしなければならぬという念を強くし、玉木文乃進、吉田松陰の如く檄誠、西郷隆盛の如く、回天の偉業をなした実行力、横井小楠の如く桁外れの思想性……、思い浮かべるは大和国の素晴らしき多くの偉人の偉業のみ……。

最後に、日本人英霊、原台湾人元日本兵軍人軍属英霊に捧ぐ……。

明治天皇御製

「国おもふみちにふたつはなかりけり
軍(いくさ)の場(には)にたつもたためも」

台湾よありがとう

なかむら さとし
桐野班 中村 哲氏

今回、十五周年を迎えた日華(台)親善友好慰霊訪問団も一人の事故者もなく無事慰霊を終え帰国することができました。ひとくちに十五年と言いますが、これまで友好、慰霊、日台の絆を深めるために日夜苦心された小菅団長

多くの気づきを与えて
くれた慰霊訪問さたけ せいこ
桐野 班 佐竹 聖子 氏

および事務局の皆様との並々ならぬご苦
労があったことを思うと感謝の気持ち
に絶えません。

小生、今回五年連続の参加でしたが、
私事に色々なことがあり参加を見合わ
せようかとも思いました。しかし、ご英霊
をはじめ待っている方がおられると思
い直し、万難を排して参加したことによ
り、また新たな出会いがあり、日台の絆
を深めることができましたことは大きな
喜びでした。五日間の旅の様子につい
ては他の団員の稿に委ね、小生の感じ
たことについて記してみたいと思います。

忠烈祠参拝については、正直なところ
反日戦、国共内戦、金門、馬祖戦の戦
没者を祀っている廟であり、いわば原
台湾人日本軍人軍属のご英霊にとって
は敵の祠です。ここを参拝することには
いささか疑念を持っていました。しかし、
考えてみるに、祖国のために戦い、尊
い命を落とされた方々を顕彰し、尊崇
の誠を持って参拝することに理屈がい
るだろうか。洋の東西を問わず、国のた
めに命を落とした人を祀ることは至極
当然のことなのです。これを忘れては、
どこかの国のように「敵は死んでも敵」
と言っているのと同類になり、人の道に
外れることになります。ましてや、毎年お
世話になっているガイドの簡添宗元空
軍少佐の戦友や、中華民国建設に尽
力した日本人山田良政が眠っているの
です。それを思うと本殿において心から
頭を垂れることができました。

忠烈祠には過去三度ほど参観したこ
とがありますが、むしろ本殿内に入るこ
となど出来ませんでした。しかし、今回は
国軍儀隊挙げての大歓迎を受け、陸軍
中佐が対応され、訪問団は本殿内にお
いて、通常、民國總統や外国国賓が献
花する場所に案内され、小管団長が代
表して献花式を行いました。簡元少佐
曰く「これまで民間団体にここまでした
例は聞いたことがない」と。日華(台)親
善友好慰霊訪問団に対する待遇は異
例であり驚きました。さらには忠烈祠を
去る時には訪問団のバスを正門前に
横付けし、儀隊私服勤務員が一般観光
客を整理していました。これも普通有
り得ない事でした。まさに十五年間に
亘る小管団長のご苦勞が実った瞬間でも
ありました。

続く外交部表敬訪問では、亞東関係

協会理事長の羅坤燦先生の「台日の
関係は心と心の関係」と言われた言葉
が強く印象に残りました。その後、林森
公園での明石総督烏居を見学し、黄文
雄先生主催の歓迎夕食会に臨みまし
た。ここでも大歓迎を受け、夕食会にお
いては台湾高座会、台湾建国派の重鎮
方との交流で色々なことをお話下さり、
大変勉強になりました。

高雄では、小生が東京の中村勝範
慶應大学名誉教授の主催する勉強会
で知り合った台湾からの花嫁、張馨文
(日本名安本佳代)さんの弟、張瑞根さ
んとご両親にお会いして親しくお話し
することが出来、そのうえ団員一同にお
土産まで頂きありがとうございました。
帰国後、彼女に高雄でのことを報告し
たところ、ご両親は訪問団と会えたこと
を大変喜ばれており、もうすでに十六次
の訪問団を持ち望んでおられるようで、
ここでも日台の友好の輪が広がっており、
再会を約してお別れしました。

台中宝覺寺での慰霊祭は残念ながら
、年々台湾の参加者が少なくなってい
ており、寂しくなっているのが現状です。
今や訪問団が主体となってきた感があ
り、東京から参加の甲飛喇叭隊の「鎮
魂の譜」がより一層厳肅な慰霊祭とな
りました。原兵曹、来年もよろしくお願
いします。李登輝友の会の林建良氏の父
君林政徳氏との再会もまた楽しきもの
でありましたが、病气入院中の胡順來・
台湾中日海交協会会長のご回復を祈
らずにはられません。林建良氏の著
書「中国ガン～台湾人医師の処方箋」
は団員の皆様にぜひ読んでいただ
きたい一冊です。

烏來では高砂義勇隊慰霊碑参拝後、
泰雅(タイヤル)族の民族舞踊を見学し、
小管団長を先頭に訪問団員も加わり、
最後は一つの輪になって皆で踊りまし
た。また、訪問団初めての烏來での食
事において現地の方との強い絆を創る
ことが出来たことは、素晴らしいこと
でした。

今後の課題として、台湾慰霊訪問団
も小生を含め団員の高齢化が進んで
おり、若い方々の参加が強く希まれます。

日台の命の絆 死守せむと

吾 日本の一角に起つ

を合言葉に、皆さんと共に今後も慰
霊の旅を続けて行きたいと願っております。

私は中学時代から歴史が好きで、社
会人になってからは、読書や映画を通
して自分なりに勉強していました。二年
前に維新の志(福岡で日本、福岡を担
う若者の志を高め、自己成長の場を提
供し、地域社会に貢献する団体)の歴
史勉強会に出会い、そこで初めて八田
與一という名前を知りました。歴史ナ
ビゲーターの井上政典先生から、彼は台
湾で「烏山頭ダム」を作り台湾の発展
に偉大な功績を残し、台湾の教科書に
も載っていることを教えて頂きました。
その時私は、なぜ「八田與一」や「烏山
頭ダム」のことが日本の教科書に出て
こないのか大きな疑問を持ちました。

普通の観光では巡らない場所を訪
れることができること、また慰霊を通し
て台湾に触れることで、先述の答えを
得ることができるかもしれないという思
いから、私はこの旅に参加しました。

第三日目からの訪問で、まず「飛虎
將軍廟」を訪れました。そこには、日本
軍人の「杉浦茂峰」が神として祀られて
いました。なぜ台湾の廟に日本人が神
として…。全く聞いたことのない話が
そこにはありました。そして、第四日
目の「宝覺寺」慰霊祭は、関係者の高
齢化の現実を見て、今後続けていく為
には若い力が必要だと強く感じました。

今回の慰霊訪問団での経験は、私
にこれから生きていく上で大切な多く
の気づきを与えてくれました。食事で
出会った台湾人の方々、その方々との
会話から、私は当たり前の毎日のかけ
がえのなさを知り、そして一日一日をも
っと丁寧に生きなければならないと深く
感じました。また同じ志をもった訪問
団の皆様、特にご夫婦で参加されていた
方々の姿は、私のこれまでの結婚観や
夫婦観を考え直すきっかけとなりました。
最後になりましたが、訪問団に参加す
ることができた今の自分の環境とご縁
に感謝し、お世話頂いた事務局スタッ
フの皆様にご心からお礼申し上げます。
ありがとうございました。

臺灣の聲 — ありがとう日本 —



私たち訪問団の活動についてのご意見や様々な交流行事での感想、近況報告等、台湾の皆様からの「声」が事務局には多く寄せられます。本誌ライセンスメイトに新たに「臺灣の聲」という投稿欄を設けることにしました。何でも結構ですから、あなた様も「声」をお寄せ下さい。

台湾台日海交会理事 林 其欽

海の彼方の心の祖國日本。ありがとう小菅団長はじめ日華(台)親善友好慰靈訪問団の団員の皆様。

戦後、日本の版図から剥ぎ取られた台湾は、今も不安定で亜細亜の孤児となりましたが、皆様は見棄てることなく15年に亙り、毎年北から南まで台湾各地の日治時代に建設された日本文化の発掘と慰靈訪問をされています。それはたとえ小さくとも、現在の台湾の基礎となっていることは間違いありません。日本なくして台湾はありません。その基礎を守り、発展してきた台湾。台湾と日本の絆は深く、歴史的淵源を共有しているからです。

英霊顕彰の行為なくして日台の両國の國交回復なしの精神の豊かさで、毎年11月25日の台中宝覺寺での慰靈祭イベントに温かい心でご参加下さる皆様に我等台湾人は感謝の念を禁じ得ません。また

台湾各地での民間交流の絆を拡大されることに深く感謝申し上げます、ありがとう。

小菅団長はじめ団員の皆様の御健祥とご多幸を祈念申し上げます。

元台湾軍敢1787部隊
歩兵砲中隊

林 啓三

小生は親友、黄樹枝さんと蔡金水さんご両者の知らせを受け、2003年11月25日に台中市の宝覺寺に赴き日華(台)親善友好慰靈訪問団の皆様にはじめてお会いしました。

小生は昭和19年、台湾の徴兵適齢者のひとりとして徴兵検査を受け、第1種乙種合格の下に、昭和20年2月1日に召集され、台湾軍敢1787部隊歩兵砲中隊に入隊し、初年兵の教育を受けた後、台湾各地の警備についておりましたが、終戦のため同年9月3日に除隊となり、最後の駐屯地桃園縣林口庄から帰郷しました。

小菅団長が民間団体の親善友好慰靈訪問団を結成し、毎年欠かさず団員を募集してはるばる日本から多数の団員を引率して台湾へ来られ、慰靈祭の挙行や現地へのご訪問によって日台の友好を深めておられる事に小生も台湾人の一人として、最高の敬意を表し、且無上の感謝の念を終生忘れません。

戦後、台湾と日本は異国となりましたが、日本政府の善政による台湾の新興に対する感謝と日本教育で得た日本精神は心の中に保っております。

戦前従軍した当時の私は満20歳の青年でありましたが、今は満88歳の高齢者です。当時の従軍者は高齢化し、或いは物故しておりますのでその数は毎年減る一方です。しかし、毎年の慰靈祭には当然参加すべき

遺族の方々の顔が見えません。過去の従軍者は何時までご奉公ができるかわかりません。それ故、今のうちに後継者つまりご遺族の方々やご子孫にこの事業を継承さ

●ご協力ありがとうございます。

松俵建設(株)

会長 松俵 義博
〒820-0205 嘉麻市岩崎1554-10
☎(0948)42-1033

ホテル ニュータンダ

代表取締役 反田 邦彦
〒850-0843 長崎市常盤町2-24
☎(095)827-6121

個人協力金B (敬称略)

廣瀬 智子 (6,000円)	平永 明伍 (3,000円)	岩本 宣善 (3,000円)
森 敬恵 (5,000円)	濱田 秀逸 (3,000円)	石川 秀久 (3,000円)
日高 誠 (5,000円)	西山 洋 (3,000円)	新開 崇司 (3,000円)
出口 清 (5,000円)	渕 幸代 (3,000円)	中山 茂 (3,000円)
平松扶二雄 (3,000円)	上野 和彦 (3,000円)	金子 孝夫 (3,000円)
青木 繁政 (3,000円)	林 克紀 (3,000円)	藤田 達男 (3,000円)

請告訴我們您的意見,感想或近況。

在LICENSE MATE裡新設了一個叫做「來自臺灣的聲音」的專欄。請寫下例如對訪問團的活動上有任何寶貴意見,或與我們交流的感想還有您的近況皆可。

內容不限,希望各位踴躍投稿。

若因版面字數上有限無法刊載全文時,敬請見諒。

傳真⇒ 81-92-725-3190



せなければなりません。このことは、今のうちに皆で力を合わせて、ご遺族を探し出し、引き継いでもらわなければならないと思います。この慰霊祭が途切れてしまったら日本の皆様の誠意に対しても、また戦没者に対しても申し訳がございません。

どうか台湾台日海交會、台湾中日海交協会とも心をひとつにし、早速計画を立てて実行に移されることを提案として皆様をお願い申し上げます。

台湾中日海交協会顧問
張頼 朝邦

小菅団長はじめ団員の皆様、今回の一切の行事が胡順來会長氏の急病、重態の為、また小生自身も骨折による人造骨への切り替え等による行動不便の由、貴訪問団の皆様の應對出来ず誠に申し訳ありません。今回の訪台中、接待の各方面において不行き届きの場合はすみませんでした、許してください。

小菅団長から、僕等台湾の各団体が出来れば今後は一切団結して、健康な者が一人代表して貴国の皆様さんとの連絡窓口となるよう働き掛け下さい。その他の戦友達も皆んな90歳前後で健康状態も一日一日と悪く、これから残生少なき晩

年が何年あるのか心配です。いつも健康を回復して再び慰霊訪問団の皆様とずっと長く交わりたいと思っていますが……。

今日、明日の一切の行事を台湾台日海交会の簡会長と幹事の廖さんと中日海交協会の何月桂さんにまかせました。ご不満でしょうがカンベンして下さい。

最後に皆様の訪問期間余程が平安と快樂でありますように。

拙筆乱文で御免なり

台湾台日海交会理事
林 余立

感謝すべき日本。日華(台)親善友好慰霊訪問団、小菅団長と団員の皆様の熱情で台湾を忘れなかった。日台の生命の絆の友誼で、毎年11月24、25日に台中市宝覺寺の慰霊祭にご参拝いただき誠に感謝を申し上げます。

簡単に自己紹介致します。林余立と申します。昭和2年(1927)3月生まれ、87歳の老人です。日本統治時代、台中州大屯郡太平庄で幼少年時代に正確な日本教育を受けました。尊い教育勅語の原則を守ってきました。また厳格な訓練を受け、丈夫な身体です。日本海軍整備兵でした。終戦後、中國國民黨がきて台湾の青少年を誘拐して、高雄港から出港し揚子

江を渡って、華北の戦地で國共内戦に参加しました。兵種は砲兵日本軍から接収した八一式迫撃砲、共軍は人海戦術で國軍は包圍され、火薬と糧食を消耗し師長の命令により夜間突圍しました。一部は捕虜にされました。私は恥ずかしくも敗残兵として上海に引き上げ、台湾同郷会に暫く収容されました。幸いにも歸りは基隆港から歸郷できました。現在は台中市郊外の東勢区和平区で土地開発をし、造林と植木園藝農場を経営しています。ありがとう日本。

台湾中日海交協会顧問
邱 創鑾

まず最初、第一に中日合作に多年に亙り御盡力されている皆様に最大の敬意を表します。

終戦以来、中日の合作は我々の熱望するところであり、93歳になる小生も敬意を表するところです。腰の痛みでスッテンコロリの毎日で、慰霊祭や交流会に参加できないのが何とも口惜しいです。今後ともお互いに手を取り合って努力したいと思いますが、高齢のためこれも皆様の御努力を待つ外ありません。いつまでもどうかよろしく願います。

ありがとう日本、万歳!
朝一番、おはよう!



どなたでもご参加できます！

第16次 台湾慰霊訪問の旅 参加者募集のお知らせ

- 目的
 - ①大東亜戦争で散華された台湾人同胞三万三千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列(台中・宝覺寺)
 - ②領台時代の魂を継承する現地台湾人との家族交流・兄弟交流
 - ③御祭神他が日本統治時代に淵源を有するところへの参拝や訪問
 - ④中華民国外交部をはじめとする各地の公的機関他への表敬訪問
- 参加資格

日本国籍を有する日本人であること(国籍、民族、人種等が異なる場合はご相談下さい)
- 訪問日

Aプラン 平成26年11月22日(土)～26日(水)までの4泊5日間
Bプラン 平成26年11月24日(月)～26日(水)までの2泊3日間
- 旅行代金

お1人様 145,000円(※Bプラン 105,000円)
※東京出発の場合や他の空港から出発の場合には差額が発生しますのでご了承下さい。
※参加費は、旅行費用、現地対策費、祭礼交流費用、記録費用によって構成されています。
旅行費用／旅費・食費・宿泊費他、現地対策費／第15次慰霊訪問事業に関わる通信費、贈答品土産他、祭礼交流費／慰霊祭主催団体への玉串料、慰霊地あてのご芳志、歓迎会主催団体への会費(謝礼)、記録費用／記念アルバム、記念DVD、記念報告集(ライセンスメイト)他
※慰霊や交流のためのお線香や土産等は事務局で準備します。
《ご注意》この旅行は 海の彼方のニッポンを訪ねて行ふ慰霊と交流の旅 です。一般のグルメ旅行や趣味の旅行とは違いますので予めご承知おき下さいますようお願い申し上げます。
- 募集人員

30名
- 食事条件

朝4回、昼4回、夕4回付(※Bプラン 朝2回、昼2回、夕2回付)
- 利用ホテル

三徳大飯店、華王大飯店、通豪大飯店 等の有名ホテル(予定)
- 申込締切日

平成26年6月30日(月)
- 訪問先

台湾 ※台湾は世界一の親日国です。

添乗員が
福岡空港より
同行します

【第16次台湾慰霊訪問の旅 予定訪問先】

- 1日目 11月22日 ①忠烈祠(献花式)～②中華民国外交部表敬訪問～③森林公園
④交歓会(黄文雄先生)／高雄泊
- 2日目 11月23日 ⑤二峰圳(地下ダム)⇒喜樂發發森林公園～⑥東龍宮(慰霊式)
⑦保安堂(慰霊式)～⑧交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)／高雄泊
- 3日目 11月24日 ⑨海尾朝皇宮(献花式)⇒飛虎將軍廟(慰霊式)～⑩烏山頭ダム⇒殉工碑(献花式)
⇒八田與一記念館⇒八田與一記念公園～⑪交歓会(台湾台日海交会)／台中泊
- 4日目 11月25日 ⑫日本人墓地(慰霊式)⇒宝覺寺(慰霊祭)⇒孔子廟～⑬交歓会(台湾中日海交協会)～⑭南天山濟化宮(慰霊式)～⑮交歓会(台日文化経済協会)／台北泊
- 5日目 11月26日 ⑯高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式)⇒酋長文化村

※但し、スケジュールは第15次の訪問先です。今次の訪問先については現在調整中です。訪問先の都合や飛行機の発着時間、交通機関等の都合により変更になることもございますので予めご了承下さい。

- 贈呈
 - ①「日華(台)親善友好慰霊訪問団」団員名刺(1セット100枚)
※両国旗がデザインされた素晴らしいものです。訪問先での交流にご活用下さい。
 - ②慰霊訪問の旅 記念アルバム(1冊) ③慰霊訪問の旅 記念DVD(5枚組)

知られざる「神蹟の遺跡」

日台の知られざる水の絆の物語～「鳥居信平」

日本人が知らない日本人

嘉南大圳の父と呼ばれる八田與一の名を知る人は多いが、日本人が知らないもう一人の土木技師がいる。その人は、鳥居信平(とりのぶへい)である。

鳥居信平は明治16年(1883)1月6日、静岡県周智郡上山梨村(現在の袋井市)の農家の三男として生まれた。信平は東京帝國大学を卒業すると農商務省農務局に就職。その後、天然資源の宝庫として注目されていた清国山西省農林学堂教授を務め、帰国後は徳島県技師となった。やがて、恩師の上野英三郎博士から『台湾製糖』への転身を勧めらる。上野英三郎博士(1871～1925)は、ご存知の通り日本における近代的な農業土木、農業工学の創始者であり、「忠犬ハチ公」の飼い主としても知られる。当時の台湾の製糖業界は、総督府とともに風雨に強い優良品種の育成に努め、土地改良、灌漑と排水システムの改善などを推し進めていた。そのため、農業土木の若き専門家を求めていたのである。

信平と入れ替わりに金沢の四高へ入学し、東京帝大土木科へ進んだ八田與一は、信平よりひと足先の明治43年(1910)に、台湾総督府土

木部技手を拝命して渡台していた。信平がやってきた年には総督府土木局の技師に就任している。その後ふたりは官と民という立場の違いこそあれ、ほぼ25年にわたり活躍をした。

荒ぶる自然と格闘する

農事部に迎えられた信平は恩師の教え通り、経済性の良い灌漑設備を造るべく、ただちに水源、土壌、降雨量の科学的調査を開始する。どのように効率よく水源を確保するか？信平はデータをつきあわせ、パズルを解くように分析していった。用水量から逆算して彼が目を付けたのは、屏東平原の海拔15メートルの地点まで潤す伏流水だった。地下ダムを造るためには、地盤沈下が起こらないような堅牢な地層、止水壁を建設するのに都合のよい基盤、貯水域に補給できるだけの降雨量と地下水、以上3点が絶対条件だ。さらに綿密な調査を繰り返した結果、林邊溪一帯が3つの条件を満たしていることを突き止めた。

大正8年(1919)から信平は、家族を屏東市内の社宅に残し建設予定地に単身赴任。以後、10余年に亘り現場と社宅を往復する生活を

続けた。原住民の説得にも力を注いだ信平は、山の奥へ郡守や取締役らと出向き、水源の使用許可を得るために灌漑工事の重要性を説明してまわった。酒が何より好きだった信平は、頭目の家でシカ肉やタケノコを肴に粟から作ったどぶろくを飲み、そのまま酔いつぶれたこともあったという。

大正10年(1921)年6月15日には起工式にこぎつけた。雨期には資材の調達、導水路の荒掘り続け、11月の乾期に入って川の水が干上ると、河床を一気に掘り下げ堰を埋設し、導水路工事にかかった。大正11年(1912)6月に通水テストを実施。全長2820メートルの導水路から第一分水工へ。そこから灌漑幹線を三方へ延ばし、さらに支線、小支線を補って、2483ヘクタールに及ぶ農地に水がゆきわたるよう工夫した。開墾も困難を極めた。総督府が払い下げたのは大小無数の石ころが固まった荒蕪地だったから、原住民に協力を申し入れ、岩や石を取り除く作業を入念に行った。大正12年(1923)5月、すべての工事を完了。なお、地下ダムは山本悌二郎社長の雅号「二峰」にちなんで「二峰圳」と名付けられた。



この河の伏流水が地下に集まる(地下ダム)



今も灌漑水路には伏流水の清流が流れる



國民革命忠烈祠・ 中華民國外交部・ 台日文化經濟協會

表敬訪問

今回は、訪問団結成15周年を記念し、訪問初日に台北の國民革命忠烈祠を参拝し、中華民國の戦没者に哀悼の意を表しました。

福岡の辦事處(領事館)を通じての正式な表敬訪問でしたので、忠烈祠の楊光輝管理組合長に案内されて献花式場へ到着しました。一行が見守る中、小菅団長が正式な

作法で中華民國烈士に花環を奉げ、厳かな雰囲気での献花式を終えました。その後、一般の人は通行できない順路で諸堂を巡り、衛兵の交代式を見学させていただきました。

忠烈祠に祀られた英霊の中には、日本軍と戦って戦死した人々が多くいます。いわば日本にとつ

ては敵国の戦死者です。敵国軍人とはいえども、彼らは祖国に忠誠を尽くしたのです。大東亜戦争で日本人として散華された英霊を顕彰することを主目的とした慰霊訪問団に対し、国賓級の扱いで遇していただいたことに深い感銘を受けました。戦いが終われば昨日の敵は今日の友です。“恨みに報ゆるに徳を以てする”態度をもって、敬虔なる黙祷を捧げたいものです。



小菅団長の献花



台日文化經濟協會での万歳三唱



羅坤燦理事長を交えての記念撮影

忠烈祠を後にした一行は、次に中華民國外交部(外務省)を表敬訪問しました。広いレセプションルームに通されると、亜東関係協会の羅坤燦理事長が待っておられました。団員一人ひとりと名刺交換をして下さり、和やかな雰囲気で見会が始まりました。羅理事長が日本と台湾の歴史的関係や民間交流の現状、今後の展望等について挨拶されたのに続いて、小菅団長は国交断絶によって政府間の正式な関係はないが、私たち訪問団は日本を代表して毎年訪れているという気概を臨んでいますと心強い答礼を述べました。羅理事長は団員からの質問にも丁寧に答られ、日本を大切に考えておられること

が伝わってきました。約1時間の会を終えた一行は外交部の玄関前で羅理事長を交えて記念写真を撮り、次の訪問地へ向かいました。

11月25日(日)、宝覺寺での日本人墓地慰霊式、靈安故郷碑前での原台湾人元日本兵軍人軍属大慰霊祭への参列、台中公園散策、台湾中日海交協会の歓迎昼食会の後、慌しくバスで北上した一行は、台湾の靖國神社である濟化宮で献花式を行い、新竹から新幹線で台北に入りました。専用バスに乗り換えた一行は台日文化經濟協會主催の歓迎夕食会に臨みました。

会場の逸郷園には黄天麟会長の

他数名の役員の方が待っておられ、一年振りの再会を喜び合いました。会食は終始和やかな雰囲気で行われ、各テーブルで政治、経済等について台湾の現状、日本時代の話に盛り上がりました。今年はカラオケも加わり、小菅団長も台湾語と北京語で台湾の歌を二曲披露して喝采を浴びました。また蔡永興氏からは団員一人ひとりに自著の歌集が贈呈され、いつもながらの細かい配慮に感心しました。最後は木村秀人副団長の万歳三唱で会を締めることとなり、参加者全員で「天皇陛下万歳、台湾万歳、訪問団万歳」を唱和して閉会しました。

第15次台湾親善友好慰霊訪問の旅

結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会

平成25年度「第15次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」の結団式・壮行会には、戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長、福岡市議会議員、藤本顕憲、津田信太郎両氏、竹下尚志・春日市議会議員等の来賓をはじめ、慰霊訪問団の役員、旅の参加者、九栄会会員、台湾からの留学生ら約70人が参集、慰霊訪問の旅の成功を祈念するとともに日台の友好親善の絆を深めた。

第15次訪問団の参加者は33人(福岡県内から20人、関東、関西から12人、台湾から1人)が参加。民間団体としては異例の戦没者への慰霊訪問と、「海の彼方のニッポン」を訪ねる旅に賛同者の輪が拡がり、関東、関西からも参加者が駆けつけている。

午後5時から始まった結団式では、日台両国の国旗敬礼、国歌斉唱に続き、先の大戦で亡くなられた原台湾人元日本兵軍人軍属並びに慰霊訪問事業に尽力し、志半ばで亡くなられた方に対して黙祷を捧げた後、訪問団の田中道夫氏が開会の辞を述べた。次いで小菅団長が挨拶に立った。

小菅団長は、台湾が日清戦争後、下関条約で清国から日本に永久割譲された経緯を語り、先の大戦で日本兵として勇敢に戦い戦死した原台湾人元日本兵軍人軍属3万3千余柱の霊が顕彰もされず彷徨っているのは「日本人として黙って見過ごす訳にはいかない、ぜひ慰霊しなければ」との思いから慰霊訪問団を組織、台湾の宝覺寺で行われる慰霊祭に平成11年から毎年参加していることを述べたあと、訪問団が堂々と日の丸を背負って行くために



卓話で熱弁をふるう戎處長

は「銃後の力が大事であり、ぜひ皆さんに応援していただきたい」と、参加者に協力を呼びかけた。その後、台北駐福岡経済文化辦事處の戎處長の卓話が行われた。戎處長の卓話(要旨)は以下のとおり。

戎處長は台湾が世界一の親日国家となった4つの要因として①恩返し②犠牲③精神的遺産④日台運命共同体意識の高まりの4点を挙げ、次のように語った。

①「恩返し」については、台湾には「滴水之恩、湧泉以報」(たとえ一滴の水でも受けた恩義は湧き出る泉のように恩返しをする)という諺があり、道徳として恩返しに非常に尊ばれている。1999年の台湾中部大地震の際に日本から政府、民間を含め巨額の義捐金が贈られ、一番先に救援隊が駆けつけたのを台湾の人たちは今でも記憶し、感謝している。このことの恩返しに東日本大震災の巨額の義捐金に繋がった。

②「犠牲」については、日本統治時代に、台湾の社会資本整備のために命を捧げた先人たち、烏山頭ダムを築いた八田與一技師、台湾蓬

萊米を開発した末松仁(筑紫野市出身)、宜蘭河の大堤防を建設した西郷菊次郎(奄美大島出身)ら7人の名を挙げ、このほかにも明石元二郎(福岡市出身)、児玉源太郎らが台湾の国づくり・人づくりに残した功績、熱い思いを今も台湾の人たちは忘れていない。戎處長は、日本のテレビドラマで流行した「半沢直樹」を引用して「恨みに恨みをもって報いる『倍返し』では平和な社会は作れない、倍返しではなく恩返しを」と呼びかけた。

③「精神的遺産」については、日本は社会資本整備だけでなく、武士道に見られる日本精神(公、忠、義、勤)という精神的な遺産を台湾に残した。私利私欲をなくし、公のために命を捧げる滅私奉公の精神が今日台湾の人たちの精神的支えになっている。

④「日台運命共同体」については、日本のシーレーンを守るために台湾はなくてはならない存在である。平成8年(1996)に台湾海峡危機がきて台日の運命共同体意識が高まっている。

最後に戎處長は、30年前、慶應大学留学中に鹿児島県の牛飼農家に初めてホームステイをし、貴重な体験をしたことを披露、まさか30年後に福岡辦事處の處長として九州に戻って来るとは夢にも思わなかった。まさに「縁は異なもの味なもの」であると語り、「縁は人と人、町と町、国と国を結びつけるものです。今日このご縁を大事にしたい。皆さんも『恩』と『縁』の二文字を肝に銘じて頂き、『縁』と『恩』を大事にし、恩返ししましょう」と呼びかけ卓話を結んだ。



台湾歌謡を熱唱する台湾関係者

第2部の壮行会では訪問団東京支部長の藤田達男氏や台湾在日福岡留学生会の林尚霖氏が挨拶、初参加団員が抱負を述べた。また、小菅団長が李蕙珊課長ら辦事處の職員を伴い、各テーブルを回り紹介、日台交流ムードが盛り上がった。台湾の歌や唱歌・故郷の合唱もあり、和やかな雰囲気の中で、日台の友好促進と第15次の慰霊訪問の旅の成功を祈念し、木村秀人氏の万歳三唱、永田昌巳常任顧問の閉会のことばで締めとなった。

第15次となる台湾への「親善友好慰霊訪問の旅」の帰朝報告会・新年会は平成26年1月25日、福岡市天神の平和楼本店で開催された。

小菅団長は挨拶で、安倍首相の靖國神社参拝について「国内的にも国際的にも極めてまともなことをされた」と語り、訪問団が、かつての敵国の国民党の兵士を祀った忠烈祠を参拝したことと言及、敵・味方の区別なく国家のために尊い命を捧げられた行為に対して哀悼の意を表したことを述べた。

また、日本海軍の軍艦をご神体として祀る高雄の保安堂の盛大な遷座式についてふれ、民間でも英霊を尊敬して祀る「靖國の心」が台湾中に充満していることを紹介した。そして、帰朝報告会・新年会の最大の目的が、日本のために戦って亡くなられた台湾人元日本兵軍人軍属3万3千余柱の供養にあることを強調、「この場が英霊の皆さんとともにあるということをしっかり留意され行事に参加していただければ望外の喜びです」と述べ、今秋実施される第

16次慰霊訪問への参加を呼びかけた。

続いて台北駐福岡經濟文化辦事處の戎處長が「台湾の日本精神から考えたこと」と題して卓話を行った。同處長は、台湾に息づく「日本精神」や台湾人の宗教心の篤さなど5点について述べ、「日本が自信を取り戻し、日本と台湾は互いに切磋琢磨して立派な国を作っていきましょう」と力強く呼びかけ、日本に奮起を促した。概要は次の通り。

①台湾には「日本精神」という言葉があり、「大和魂」と同じ意味で使われ、勤勉と進取の精神、強い責任感、法を守り、和を尊び、忍耐することなどが含まれている。日本の近代教育を受けた台湾人は、戦後めにした中国文化よりも「日本精神」に優位性を見出し、自ら進んで「大和魂」で精神武装し、内外の厳しい環境を生きようとしている。「日本精神」は今も台湾人の魂として生き続けている。

②日本人のものづくりへの情熱と時間を掛けても新しいものにチャレンジする精神は尊敬に値する。また、昔の日本人は緊急時には皆で力をあわせた。けじめを重んじ必ず約束を守る、日本人を台湾人はそのように見てきた。

③今の日本の問題点は、生かされているという素朴な宗教心がないこと。若者は幸せな単一国家に生まれた喜び、感謝の念を知らない。今の若者は裕福すぎて考えが甘くなっているのではないか、これこそが大きな日本の不幸である。

④台湾人は、外来支配の苦難に満ちた400年の歴史の中で、神に依存し助けを求め、人間として磨かれたから宗教心が篤い。そして今日まで儒教の精神が生き続けていることがその主要因ではないか。

⑤昔の日本が素晴らしかったのは、儒教の精神が生きていたからではないか。日本がしっかりしなければ、

ば、東洋に平和は来ないと思っている。日本が強い立派な国になったら、台湾も立派になる。日本の皆さんが本当に自信を取り戻して努力して欲しいと述べた。卓話終了後、事務局より帰朝報告が行われた。今回の慰霊訪問のポイントとして①訪問初日の最初に台北の忠烈祠を参拝、国賓級の待遇を受けたこと②大正12年に鳥居信平技師が完成させた二峰圳地下ダム(屏東)を見学、現地で大学教授から詳しく説明を受け、先人の遺した「水の絆」と功績を偲ぶことが出来たこと③東龍宮(同)改築の地鎮祭に参加、田中綱常海軍少将の子孫と出会ったことなどを挙げ、16次の慰霊訪問の旅への支援を要請した。

第2部の新年会は、来賓の福岡県議会議員の松尾嘉三氏や福岡市議会議員の藤本顕憲氏、津田信太郎氏をはじめ、台北駐福岡經濟文化辦事處から戎處長と5人の領事や職員、台湾からの留学生、福岡県中華總會の役員、慰霊訪問の旅に参加した団員ら約60人が出席して賑やかに開催された。

訪問団東京支部長の藤田達男氏が開会のことばを述べスタートした。藤田氏は東京で国会議員の台湾訪問団を立ち上げ活動している。その活動の中で福岡の活動も報告しており、「私たちの慰霊訪問団は国会議員の間でも知られてきており、全国的な拡がりを見せていることを認識してほしい」と挨拶した。

次いで来賓の挨拶、錦江流師範教授錦江岳泉さんによる祝舞が披露され、九栄会副会長の上野和彦氏の乾杯の音頭で祝宴に移った。

祝宴では、戎處長や辦事處の領事、留学生、小菅団長らを交えて、台湾での貴重な体験に話が弾んだ。日台の友好の絆を深めるとともに今秋の第16次訪問に向け力強いスタートとなった。

日台の魂の交流 第11回台湾特別講演会

15周年記念事業

『思想的背景から見た日台の魂の交流』

— 日本人の生と死を見つめながら魂の深層を探る —

台湾特別講演会は、平成15年6月から実施されており、今年で15周年となる。講演会は2部構成で第1部は恒例となった文明史家の黄文雄先生による基調講演、「思想的背景から見た日台の魂の交流」。第2部は、昨年に続きパネルディスカッションが行われ、「今後の日本と台湾の真の交流について」をテーマに小菅団長が進行役で、黄文雄先生、施光恒先生、柳原憲一先生による討論が行われた。

講演に先立ち式典が行われ、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、「生命の絆」唱和、寺田蝶美、岩城朋子さんの筑前琵琶による平家物語の一節・那須与一の演奏が行われた。厳粛な雰囲気の中、主宰者を代表して慰霊訪問団の小菅団長が挨拶に立った小菅団長は、関東や九州各地、遠くは台湾からも参加した多くの出席者に謝辞を述べた後、筑前琵琶の演奏に触れ「千年経っても語り継がれる平家の武士たちは幸せだ。日本のために戦死された台湾兵のことも1年に1回でもよいから思い出して欲しい」と呼びかけた。そして、①今回の講演会の目的②慰霊訪問の沿革③今回から台湾特別講演会実行委員会を作り、大勢の人から物心両面の支援を受けたことについて語った。

また、小菅団長は戦死者のこと、台湾のことを片時も忘れないために靖國神社と日台友好のバッジを胸に付け、慰霊訪問事業を続けていることを話し、魂の問題を取り上げた今回の特別講演を通して、「日本と台湾が切っても切れない同じ国と考えてよいほどの共通点があることを感じてもらえれば本望だ」と述べ、日台の魂の交流が益々盛んになり、正式に国交が結ばれることを祈念した。

次いで来賓を代表して福岡市議会議員の津田信太郎氏と産経新聞九州総局長の石橋文登氏が挨拶に立った。津田氏は日台友好議員連盟の一員として「日本と台湾が是非国交を結べるようにしっかり活動して行きたい」と述べた。石橋氏は、中国の海洋発展戦略の現状を指摘。「台湾と日本は同じ危機感の中で助け合って共存し、一緒に頑張るしかない。安倍総理、麻生副総理とも親台派で、交流は更に深まっていくだろう。政府間で安全保障条約を結ぶのも大事だが、その根底にあるものは民間交流だ」と述べ、長年に亙り育んできた小菅団長に敬意を表した。

その後、「日華(台)親善友好慰霊訪問団」台湾支部の黄楷棻事務局長が「台湾の声」を読み上げた。黄

事務局長は「命を与えてくれたのは台湾にいる両親だが、日本にいた9年間育ててくれたのは小菅団長はじめ日本のみなさんだ。両国の心を持っていることを活かし、これからも台湾と日本のために頑張っていきたい」と述べ、訪問団への参加を呼びかけた。

その後講演に移り、第1部は文明史家の黄文雄先生が講師を務め、「思想的背景から見た日台の魂の交流」と題して講演。「台湾特別講演会」では平成17年から連続で、鋭い筆法で評論活動が続けている黄文雄先生を講師に招いている。第2部では「今後の日本と台湾の真の交流について」をテーマに、訪問団の小菅団長が司会を務め、パネリストに黄文雄氏、九州大学大学院准教授の施光恒氏、西日本台湾学友会前会長の柳原憲一氏の3氏を招きパネルディスカッションが行われた。

講演会終了後、講師の黄文雄氏や東龍宮堂守の石羅界さん、留学生らを囲み、約150人が参集し懇親会が開かれた。台湾から参加した石羅界さんと台湾支部事務局長の黄楷棻・李光立ご夫妻が各テーブルを回って挨拶、日台の親善友好を深めるとともに、第15次の慰霊訪問団への参加の気運が大いに盛り上がった。

黄文雄氏の講演内容(概要)は次のとおり。

黄氏は、死者を大事にする日本人の死生観について、魂の問題からアプローチ、日台の交流はいかにあるべきかを探った。

日本人の魂と心の問題、「日本人とは？」に興味を持った黄氏は、「死者悉皆成仏(ししゃっかいじょうぶつ)―死んだら皆仏になるという日本人独特の死生観から説き起こし、台湾大震災での日本の救援隊の「黙祷」が台湾人に大きな感動を与えたことを述べた。そして、目に見えるものを重んじる儒教文化圏の中国・韓国と、目に見えないもの、魂と心を重んじる仏教・神道文化の日本との違いを、表意文字の漢字と表音文字の仮名を使用する国民性の違いを混じえ説明した。

心の民族・日本人

日本に暮らして半世紀にもなるが魂と心の問題には非常に興味がある。日本は他の国と違うところが多くあり、心の民族といえる。死者に対する慰霊訪問は世界的に見ても日本だけではないか。日本人は目に見えない魂と心を大事にする。

どの民族でもそれなりの文化があり、文化によって歴史観も違ってくるし、死生観も変わってくる。同じ仏教国の中でも日本は他と違い、「死者悉皆成仏」という考え方がある。人間は死んだら皆仏になるという考え方がある。ルース・ベネディクトは、このような考え方は日本人以外にはないと言っている。

日本人は、人間が亡くなれば仏か神になる。中国は違う。死んでも魂を食う文化だ。死生観の違いから歴史観が異なり、文化の違い、文明の衝

突が起きてくることが多い。極論すれば漢字を使用する儒教の国には魂と心はない。

独自の文化は 独自の文字から育つ

中国も韓国もベトナムも儒教文化圏だが日本は違う。確かに江戸時代は、儒教は官学としての地位を獲得したが、根をおろさず定着しなかった。

日本の数千年の長い歴史の中で最大の発明は仮名文字の発明だと思う。漢字を使う民族に魂、心がないと言ったのは、漢字は表意文字であり、目に見える文化、視覚文化だからだ。

日本語は朝鮮、モンゴルと同様なアルタイ語系と言われ、日本人には漢字は使いにくかった。そのため表音文字を独自に開発した。中国北部に帝国を築いた契丹や女真も独自の文字を作った。独自の文化は独自の文字から育つ。

魂の交流は感動を生む

日本人はお葬式には絶対といっていいほど参列する。義理固い。中国人とは生死に関する思いが全く違う。日本人の魂の交流は実に感動的だ。日本人の生き様、ものの見方、考え方を端的に示したのが台湾中部大地震(1999年9月21日)での日本救助隊の活動だった。

日本の救助隊は一列に並び、死者に対し丁寧に黙祷を捧げた。この行為が台湾の人たちに大きな衝撃と感動を与えた。中国の四川大地震の際にも日本救助隊の死者を悼む

姿が見られたが、あの姿を見れば日本人は違うということを再認識するのではないか。

日本と台湾の文化の近似性について、余り語られてはいないが、東アジアの文化の基層にあるのはシャーマニズムだ。1万～1万5000年前は、台湾と沖縄、九州は陸続きで同じ文化圏の時代があった。台湾原住民と沖縄の人たちのDNAは近い。

生と死が近い日本人

日本人だけが魂のことに關してなぜこうも心を寄せるのか。例えば仏典の「般若心経」の“空”の考えが、インドから中国に入ったら“無”になり、日本に入ったら“心”になった。また、神道と道教の違いもある。神道は人間が亡くなって神様になる。道教は、生の延長で死なずに、不老長寿、仙人になる考え方がある。

日本人は生と死が近い。精神分析に關しては、空海の「十住心論」などは西洋哲学以上のものがある。仏教哲学者の鈴木大拙は「日本的靈性」は、民衆の浄土教系仏教と武士階級に禅宗が入ってきた鎌倉時代に生まれたと言っているが、最澄と空海の時代に日本的靈性がなかったのか、神道の中にそれがないのか疑問が残る。

日本と台湾の交流は、目に見える交流より、数と量だけでなく質も考えた「物から心への交流」を考えた方がよいのではないか。魂の交流がやはり大事で、心が通い合うような仕組みが大切だ。



第2部のパネルディスカッションでは小菅団長がコーディネーターを務め、各氏が慰霊訪問が問いかけるもの、日本人の死生観、日台の魂の交流について語り合った。

黄文雄氏は「アジアの中でも韓国では祖先を崇拝するが、日本人は祖先には関係なく死者に対して慰霊の心を持つ、慰霊訪問や遺骨収集は日本人特有のものである」と語り、南京大虐殺については「捏造だ」と強調。「アメリカも台湾も、関係者は否定しているのに日本政府はあったと言っている。外国の問題ではなく日本政府の問題だ」と語った。

施光恒氏は、日本人の文化の根底にあるもの、死生観、霊の概念、慰霊の意味、日本と台湾のつながりについて話した。日本人の死生観については、民俗学者・柳田國男の著書「先祖の話」を引用し、日本人は死んでも近くに魂が漂って遠くへ行かず、故郷の山の高見から子孫の生き方を見守っているという文章を紹介。ここが外来宗教とは異なる点で、日本の国土を愛するが為に魂は遠くへ行かないという、柳田の見解を紹介した。また、柳田が著書の中で、慰

霊の大切さに言及していることも披露、多くの若者が国の為に戦死する状況について、妻子もいない戦死者を無縁仏してはならないと、国家による慰霊の必要性を訴えていることを話した。

台湾との関係では、第7代台湾総督で福岡市出身の明石元二郎・元陸軍大将について、また東京ドームで行われたWBC二次ラウンドの日本対台湾戦での日台両国選手の感動的シーンが繰り広げられたことを紹介した。

施氏は「日本と台湾は心が通い合う部分が多い。心の通い合う唯一の外国の友人ではないか、慰霊の心の共有もできるのではないか」と語った。

柳原憲一氏は日本と台湾の共通項と“隠された南京大虐殺”をテーマに語った。極東国際軍事裁判の資料集の中に、南京における中国兵の暴行の事例があることを指摘、また日本軍の侵攻により南京を撤退する中国軍に混乱が生じ、3000人に上る大虐殺が発生したという蒋介石の日記を紹介。中国軍によるもう一つの南京大虐殺があったことを語った。

柳原氏は「政権維持のためには虐殺も厭わない姿勢が天安門や法倫功の弾圧に繋がった。戦争の犠牲者に必要なものは鎮魂であり、復讐ではない」と語り、沖縄の平和祈念公園にある「平和の礎」を例に挙げ、沖縄戦で犠牲になった人達を、軍人、民間人、国籍を問わず刻銘した「その姿勢こそが真の鎮魂であり平和祈念であると思う」と述べ、今も南京事件を政治的に利用する中国に「魂に敬意を持つ視点から戦争犠牲者への真の鎮魂を提言したい」と語りかけた。

小菅団長は「日本人は死者に耳を傾けるが、中国は政治的に利用することを考える」と、日本と中国の死者に対する姿勢の違いを指摘、日台の真の交流は魂の交流にあると述べた。また、「日本人は郷土愛、家族への愛が強く、亡くなくても必ず見守っているという気持ちを持っている。そのことを台湾の慰霊訪問に行って、台湾の人も理解してくれていることが分かった。魂を理解しない文化ではこのようなことは理解できない。日台関係は慰霊訪問事業にヒントがあるのではないかとパネルディスカッションを締め括った。

第12回 台湾特別講演会

日台の魂の交流 黄文雄先生 福岡講演 連続10回記念

第1部

日本人が台湾に遺した武士道精神

— 台湾と日本を結ぶ日本精神 —

黄 文雄 先生

第2部

私たちは日本を取り戻す

パネルディスカッション

私たち原日本人は大切なものを忘れてしまった

黄 文雄 先生

台湾の中のニッポン～日本人が取り戻すべき心とは

施 光恒 先生

台湾人戦犯死没者の遺書より

柳原 憲一 先生



【略歴】昭和13年(1938)台湾高雄岡山鎮生まれ。昭和36年(1961)来日。昭和44年(1969)早稲田大学商学部卒業。昭和46年(1971)明治大学大学院・政治経済学研究科西洋経済史学修士。現在、拓殖大学日本文化研究所客員教授。

こう ぶん ゆう
黄 文雄 先生
(文史家)



【略歴】昭和46年(1971)福岡県生まれ。平成元年(1989)福岡県立修猷館高等学校卒業。平成5年(1993)慶應義塾大学法学部卒業。同13年(2001)慶應義塾大学大学院比較社会文化研究院准教授。現在、九州大学大学院比較社会文化研究院准教授。

せ てる ひさ
施 光恒 先生
(九州大学大学院准教授)



【略歴】昭和32年(1957)台湾彰化県和美鎮生まれ。昭和59年(1984)来日。平成5年(1993)九州大学医学部卒業。九州大学医学部附属病院医員。現在、医療法人柳原皮膚科クリニック理事長。台湾平埔族研究家。

やなぎ ほら けん いち
柳原 憲一 先生
(西日本台湾学友会前会長)

どなたでもご参加できます！

■日時：平成26年 **6月8日(日)** 開演13:00 開場12:30

■会場：福岡ガーデンパレス 1階ホール

福岡市中央区天神4-8-15 TEL(092)713-1112

講演会 / 13:00~17:00

会費：1,000円(学生500円)

定員：200名

交流会 / 17:15~19:00

会費：5,000円(講演会込)

定員：100名(全席円卓着席)

講演会終了後に講師の先生や台湾の皆様を囲んで和やかに交流会を催します

主催：日華(台)親善友好慰霊訪問団(平成11年結成)

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階 TEL 092-721-0101 担当 原田・池田

■特別協賛：台北駐福岡経済文化辦事處／九州不動産専門学院／九栄会(九州不動産専門学院グループ同窓会)／山口県日台交流協会／関家具／濱崎理想瓦製造所／近畿日本ツーリスト九州福岡支店

■協 賛：福岡教育連盟／美祢市総合観光部／H A S／国際不動産鑑定所／甲斐歯科クリニック／小島テナント事務所／悠悠／大道印刷

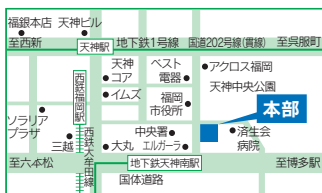
■後 援：産経新聞九州総局／福岡市議会日台友好議員連盟／日本会議地方議員連盟／日本会議福岡／台湾在日福岡留学生会／福岡縣神社廳／福岡縣護国神社／英霊にこたえる会福岡県本部／福岡県海友会／福岡県郷友連盟／水交會福岡支部／甲飛喇叭隊第11分隊／大野城市国際交流協会／福岡日華親善協会／福岡県中華總會／西日本台湾学友会／福岡県モラロジー協議会／日本協議会福岡県支部／教育研究会未来／スタジオ日本日曜討論番組を支える会／チャイナエアライン／エバー航空／紅乙女酒造

■現地協力：台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 台南・飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 苗栗・勸化堂 新竹・濟化宮 台北・烏來高砂義勇隊紀念協會 台南・嘉南農田水利協會(烏山頭水庫・八田與一紀念館・八田與一紀念公園)

<慰霊祭主催団体> 台中・台灣台日海交會 台中・台灣中日海交協會

<交流団体> 台北・台日文化經濟協會 台南・奇美基金會(奇美博物館) 台南・鹽水國民小學

■企画運営：第12回台湾特別講演会実行委員会



日華(台)親善友好慰霊訪問団

本部 福岡市中央区天神1-3-38
TEL(092)721-0101
FAX(092)725-3190

台湾支部 (支部長: 黄明山)
高雄市鳳山區南正一路
2巷11弄5號
TEL(07)751-4906

台湾支部事務局 (事務局長: 黄楷榮)
基隆市信義區深溪路
31巷48號1樓
TEL(08)878-6520

URL <http://taiwan.l-mate.net>

Eメール taiwan@l-mate.net

